修正新編
世界地理教科書
上巻
文學士
中目覺
著
東京
三省堂發兌

第一学期 —— P.23

第二学期 —— P.24. 中巻

大正元年十二月二十六日
文部省檢定濟

修正新編

世界地理教科書

上卷

廣島高等師範學校教授
文學士
中目覺 著

東京
三省堂發兌

各國旗

希臘
白耳義
英吉利
大日本
亞米利加合衆國
瑞西
獨逸
大日本聯隊旗
墨西哥
西班牙
佛蘭西
大日本海軍旗
ORDEM E PROGRESSO
伯剌西爾
葡萄牙
露西亞
清
亞爾然丁
丁抹
伊太利
暹羅
秘魯
瑞典
墺地利、洪牙利
波斯
濠太剌利聯邦
諾威
和蘭
土耳其

緒言

本書は、明治四十四年七月文部省定むる所の中學校教授要目に則りて編纂し、中學校地理教科書に充つるを以て目的としたり。即ち上卷は第二學年、中卷は第三學年、下卷は第四學年に於て之れを使用せんと欲す。　本邦中等學校と、歐米諸國の同程度の諸學校とに於ける、地理科の内容を比較する時は、我れに聊か遜色あるを認むと雖、今俄かに之れを改むるは、却つて弊害ありと信じ、本書の内容も略、從來の程度に止めたり。　又地理科は、他の諸學科と關聯する所、甚だ深且つ密なるものありと雖、現時の教育諸大家は、中學校に於ては、歷史との連絡を以て尤も適切と認むるが如し。　されば著者は、各國の沿革を略述するを以て、至當と信じたり。　又地名人名は、文部省調査表に則りたれども、國定教科書小學地理との連絡上、二三の例外なきにあらず。　次に統計・挿畫地圖等は、斬新のもの

を撰びたり。次に學術界の趨勢を見るに、度量衡の如きは、米法に從ふもの漸く多からんとす。是れ本書に於て、數量は多く米法に從ふ所以なり。されど初學者の不便を恐れ、卷末に度量衡比較表を附したり。抑も教科書は、教授の骨子に過ぎずして、生徒の習得を確實ならしむるには、諸種の演習を必要とす。前述の比較表の如きは、國勢一覽及び貨幣換算表と相待ちて、尙ほ是れ等演習上の一助たるを得べし。要するに本書は、文部省所定要目の範圍內に於て、簡潔を旨としたれば、教師諸氏が敷衍節略其の宜しきを得、地理教授に一段の進歩を示さば、著者又何をか望まん。

終りに臨み本書編纂に際し、有益なる助言多大の補助を與へられたる各位に對し、謹んで深謝の意を表す。

大正元年九月

著者識

修正新編 世界地理教科書 上卷

目次

修正新編 世界地理教科書 上巻 目次 終

修正新編 世界地理教科書 上巻

文學士 中目覺 著

第一編 滿洲

第一章 關東州

一、**位置・境域**　關東州は、遼東半島の南西部、卽ち西は普蘭店より、東は貔子窩に至る線以南の地、及び附近の長山列島・五島の總稱にして、淸國の山東半島と相對し、渤海灣の咽喉を扼し、滿洲地方の門戸をなす。　面積ほゞ鳥取縣と相似たり。

二、**地勢**　長白山脈の支脈、域内を縱走して丘陵多く、金州附近にては大和尙山となり、更に南西にのびて大孤山・二〇三高地・老鐵山等を起し、其の餘派、海に沒して廟島列島となる。

長山列島中の海洋島附近は二十七八年役の古戰場

面積 三三七三 平方粁

人口 四四六、〇〇〇

*一名大赫山 七〇〇米

南山は三十七八年役の激戰地

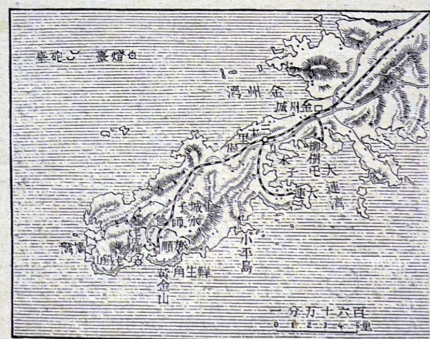
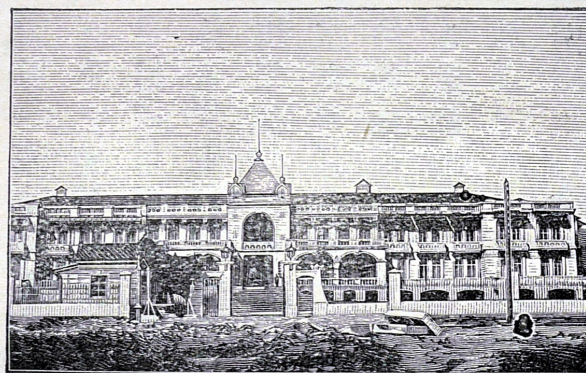
圖解　關東半島

都督は陸軍大中將を以て任ず

半島の中部は、金州・大連の二灣深く入りこみて、金州地峽をつくり、こゝに南山の險要あり。

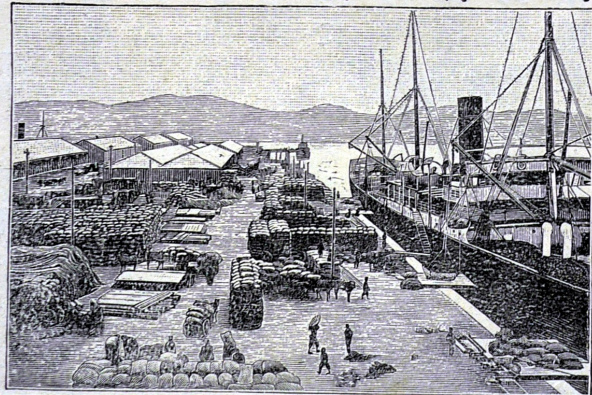
三、**氣候・生業**　此の地方は我が酒田・水澤附近と、同緯度にあれど、大陸の影響をうけ、內地に比すれば、一般に寒冷なり。雨量も內地に比すれば少く、唯夏期に多し。」沿岸は、鹽の產多く、特に二道溝・貔子窩等に盛なり。又沿海地方には魚類多し。陸には高粱・玉蜀黍等を產す。

四、**住民・政治**　人口凡そ五十萬、主として支那人なれども、三萬餘の本邦人ありて、商工業の實權を握る。

我が國は、旅順に都督府を置き、本州の管轄、及び南滿洲の鐵道と其の沿道の保護取締とに任ぜしめ、大連及び旅順には民政署を置きて、各管內の政務を分擔せしむ。

五、**都會・交通**　大連*（人口四萬）大連灣にのぞみ、柳樹屯と相對し、門司より航海二晝夜（六四〇海里）にして達すべし。民政署・南滿洲鐵道會社等あり。市街及び港灣の設備の完成せるは、東洋中稀に見る所とす。南滿洲鐵道の起點にして、大豆・豆粕・柞蠶絲等の輸出多く、營口と

*露國の營經せし市街にしてもとダルニーと稱せり

圖解　關東都督府民政署

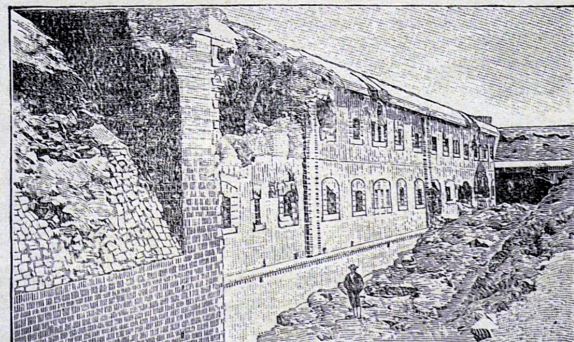
圖解　大連埠頭に於ける大豆船積

其の商權を爭ふ。

南滿洲鐵道により、臭水子に至れば、旅順に至る支線あり。

*旅順●一萬五千は關東半島の南端にあり、四面丘陵を繞らし、狹き水路により渤海灣口に通ずる形勝の良港にして、東西兩港に分る。東は軍港にして、西は商港なり。海軍鎮守府・關東都督府・民政署・高等法院・工科學堂等置かる。附近の二〇三高地・松樹山等は、二十七八年・三十七八年兩戰役に於ける壯烈なる激戰地なり。

臭水子より本線に沿ひて北すれば、金州一萬・普蘭店等を經て、南滿洲の諸驛につらなる。

圖解　東鷄冠山砲台跡

*英國の海軍大尉アーサー氏の發見にかゝる

●金州●は金州地峽に位し、支那歷朝、此の地を以て遼東の重鎭となせり。我が民政支署の所在地なり。此の地より柳樹屯に通ずる鐵道支線あり。

六、**沿革**　二十七八年戰役により、遼東半島我が手に入らんとせしが、露・佛・獨三國の抗議により、これを淸國に還附せり。明治三十一年膠州灣事件起るや、露國は旅順・大連二十五年の租借權と、東淸鐵道の一驛より、これに通ずる支線敷設權、及び其の沿道の鑛山採掘權を得、旅順の防備を嚴にせり。三十七八年戰役の結果、我が國は露國に代りて、此の地方の租借權を得、長春以南の鐵道をあはせ、此の地方富源の開發をつとむるに至れり。

第二章　滿洲

面積　九十四萬五千方粁
人口　一千六百萬

一、**位置・境域**　滿洲は支那の北東部を占め、奉天・吉林・黒龍江の三省より成り、一に東三省といふ。

北東は、黒龍江・烏蘇里江及び凱興湖等によりて、西比利亞に接し、南東は、鴨綠江・長白山及び圖們江によりて、朝鮮と境す。面積我が國の一倍半に近し。

二、**地勢**　西に興安嶺あり、東に長白山・摩天嶺等あれど、中部は松花江・遼河の流域にして、大平原をなし、農牧の業盛なり。遼東半島、長く南西に突出して、渤海灣と黄海とを分ち、旅順・大連等二三の良港を有す。

三、**氣候・生業**　氣候は大陸性にして、寒暑の差甚だしく、遼河の如きも凡そ半年は氷結す。夏期に豪雨多し。

土地肥え、南滿洲には大豆・高粱・玉蜀黍等多く、北滿洲には小麥の栽培盛なり。牧畜は一般に行はる。鑛物は撫順・煙臺

等の石炭を第一とし、三姓附近の金これにつぐ。森林は鴨綠江流域に多く、日清合同の採木公司ありて、其の經營にあたり、木材の安東縣より輸出せらるゝもの多し。其の他柞蠶繭等の産も少からず。工業は未だ盛ならず。但し營口附近の豆糟・豆油製造は其の規模極めて大なり。又鐵道幹線の附近には諸種の新工業起れり。

四、**交通**　遼河・松花江等は、舟運の便極めて大にして、夏はジヤンクの上下するもの多く、冬は氷結して車道となる。道路は日露人の居住せる地方をのぞけば甚だ不完全なり。

東清鐵道は北滿洲を縱斷して、滿洲里・海拉爾哈爾賓等を連ね、我が南滿洲鐵道は長春に於てこれと連絡し、旅順・大連及び營口に通じ、遼河と共に此の地方の動脈となる。又我が安奉線は、奉天・安東縣をつらねて遠く釜山と連絡し、奉天・營

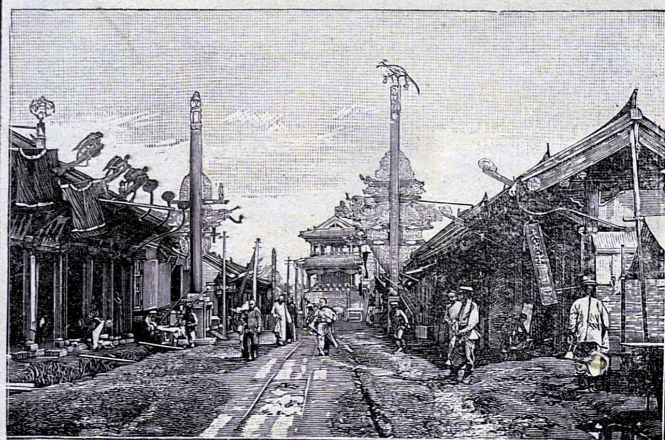
ツングース族には纏足の惡習なし

口よりは更に錦州・天津等に通ずる線あり。海上交通は大連・營口を中心として、本邦船等の出入しげく、ジャンクは山東省地方と盛に往復す。

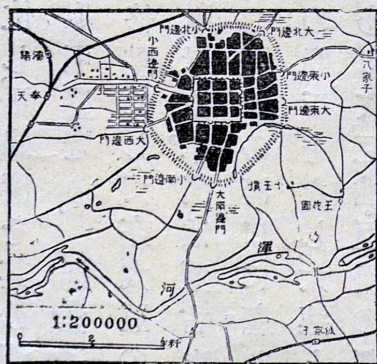
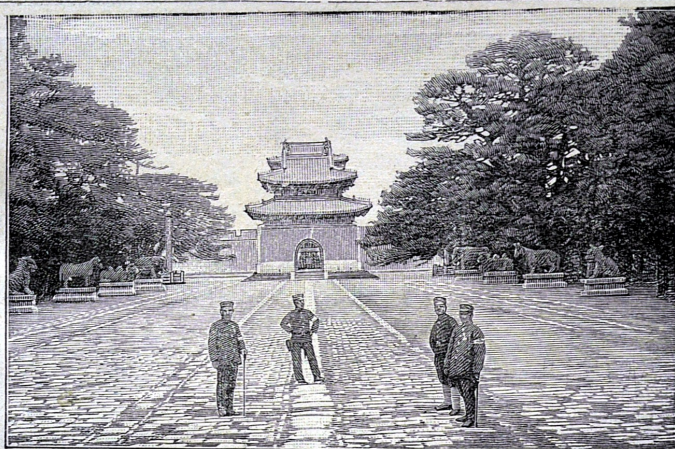
五、**住民・政治**　滿洲固有の住民は、ツングース族なれども、今は山東・直隷地方より多數の漢人入り來りて商權をにぎり、言語・風俗等も其の感化を受けし點多し。北西部には蒙古人ありて、農牧に從事す。其の他、南滿洲に本邦人、北滿洲に露西亞人の居住せるもの少からず。此の地方は清祖發祥の地なれば、從來は形式上重を措きて他の地方と其の行政を異にせしが、今は各省に都督を置き此の地方の民政・軍政を統べしむ。

六、**地方誌**　盛京省(奉天省)は所謂南滿洲の地にして、地勢上東西の二部となる。西は遼河の流域にして、大豆・高粱の産

圖解　奉天の市街

圖解　奉天市街及び附近

少からず、東部山地は石炭・玉蜀黍・柞蠶等多し。奉天(十六萬)は渾河の北方に位し、滿洲政治・經濟等の中心地にして、第一の都會なり。清の太祖(愛親覺羅弩爾哈赤)の初めて都せし處にして、北陵・東陵等存す。我が總領事館あり。遼陽は奉天につぐ都會にして、附近の首山堡は、三十七八年戰役の激戰地として名高し。鐵嶺は

圖解　北陵の東門

遼河の中流に位し、馬蜂溝を其の咽喉とし、大豆の取引盛なり。通江子は遼河水運の終點にして亦大豆の取引多く、其の對岸法庫門は蒙古との交易盛なり。遼河の河口に營口あり。南滿洲の門戸をなし、大連と競爭の地位にありて、豆油・豆糟の製造盛なり。鴨綠江口に安東縣あり、新義州と相對して交通の要地となり、且木材の集散多く、邦人の在留するもの少からず。

吉林省は盛京省の北東に位し、北部は松花江の流域に屬す。哈爾賓は松花江に沿ひ、鐵道の交叉點に位し、北部滿洲の大

圖解　哈爾賓と松花江の鐵橋

市街となる形勢あり。燐寸製造・製粉業等盛なり。長春は南滿洲鐵道の終點にして商業盛なり。此の地より吉林に至る鐵道は、近時開通して、更に間島に延長せらるべし。松花江と牡丹江との會點に三姓あり、河港にして附近に金の產多し。寧古塔は吉林省の首府にして、附近は清祖發祥の地なり。琿春は露・鮮の境に近く邊要の地なり。

黑龍江省は最大の省にして、省城を齊々哈爾といふ。愛琿は黑龍江をへだて、ブラゴベシチェンスクに對し、一名黑龍江城といふ。滿洲里は西比利亞に近き開市場なり。

亞細亞洲及び歐羅巴洲の地勢

六大洲の面積比較

亞細亞洲	亞弗利加洲	北亞米利加洲	南亞米利加洲	濠太利亞洲	歐羅巴洲
四千四百万方粁					

第二編 亞細亞洲

第一章 總說

一、**位置・境域** 亞細亞洲は東半球の北東部を占め、面積凡そ四千四百萬方粁、地球上最大の大陸にして、世界全陸地の略〻三分の一にあたる。

北は北極洋に臨み、東は太平洋及びベーリング海峽をへだてゝ、亞米利加大陸に對し、南は印度洋に面し、南西は紅海・スエズ地峽を以て、亞弗利加洲に接し、西はウラル山脈・裏海・ウラル川・黑海等を以て、歐羅巴洲に境す。

二、**地勢** (イ)**概說** 本洲の略〻中央にあたり、「世界の屋根」の稱あるパミール高原あり、山脈これより四方に射出し、各斜面に大小の平野あり。

地形雄大にして、世界第一の大山系・大

圖解 亞細亞洲の山系

高原・大低地・大湖・大半島等を有す。

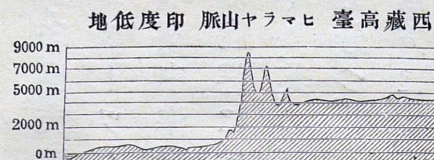
(ロ)山系 パミール高原の北東を東走するものには天山・アルタイ二山系あり、更に北東にのびてヤブロノイ高臺・スタノボイ山脈等となり、ベーリング海峡に至りて盡く。 東に走れるは、崑崙山系にして、支那本部に入りて、北嶺となり、其の一派は興安嶺となる。以上の諸山脈にはさまれて、荒漠なるタリム盆地・ゴビ沙漠等あり。 雄大なるヒマラヤ山系は、パミール高原の南東に大彎を畫き、崑崙山系との間に、世界一の大高原西藏高臺をつくる。 世界第一の高山エベレスト峯(八八四〇米)は、此の

各大陸平均高度

大陸	平均高度
亞細亞	九五〇米
歐羅巴	三〇〇
亞弗利加	六五〇
北亞米利加	七〇〇
南亞米利加	六〇〇
大洋洲	四〇〇

圖解　東經八十七度に於ける亞細亞洲の南北斷面圖（高さ五十倍）

山系中に聳え、其の他五千米以上の高峯多し。
印度支那山系は、ヒマラヤ山系の東を縦走し、馬來半島の南端に及べり。パミール高原より南にスリマン山脈あり、西にヒンヅークシ山脈・エルブールズ山脈あり、更に西にのびてカフカズ山脈に連る。此れ等の諸山脈の南は、イラン高臺をなす。其の他印度にはデカン高臺、亞剌比亞には亞剌比亞高臺あり。

(ハ)水系及び平野　主要なる河流は、概ね源を中央の高地に發し、四方に流れ、雙子河多し。太平洋斜面には、黒龍江・黄河・揚子江・西江及びメコン河あり。揚子江最も水運の便に富み、其下流の流域に豊沃なる支那平原あり。印度洋斜面には、ガンガ・ブラマプトラ・インダス、シァテル・アラブ等の諸川ありて、印度平原・メソポタミア平原等をつくる。北は北極洋に緩斜し、オブ・イェニセイ・レナの三大河、ゆるく流れて本洲第一の西比利亞大平原をなす。
本洲の中部及び西部には、内陸流域の河流多し、卽ちアム河・シル河はアラル海に入り、ウラル河は裏海に注ぎ、伊犂河はバルハシ湖に入る。

湖沼の大なるものには、裏海あり、面積四十四萬方粁に及び、世界第一の鹹湖なり。其の東にアラル海・バルハシ湖あり。又バイカル湖は、世界最深のものと稱せられ、死海は世界の最低地にありて、其の水面は地中海面より低きこと三九四米なり。

湖沼	面積
カスピ海	四十四萬方粁
アラル海	六萬九十方粁
青海	七千方粁
バイカル湖	三萬四千方粁
バルハシ湖	二萬方粁

(ニ)海岸及び屬島　胴體部と半島・島嶼等との比は、歐羅巴洲につぎ世界第二に位すれども、海岸線は面積に比すれば甚だ短く、且つ海岸より遠き內陸の廣大なること、他に比類なし。出入は北極洋岸に最も少く、且つ終歲殆んど氷結して舟運の便なし。又ニューシベリア諸島の外、著しき島嶼なし。ベーリング海峽をすぎて太平洋に出づれば、カムチャツカ・朝鮮・印度支那の三半島突出し、日本列島・馬來群島等羅列してオホーツク海・日本海・東支那海・南支那海等の緣海をつくる。本洲中海岸線最もよく發達し、島嶼もまた多き地方とす。

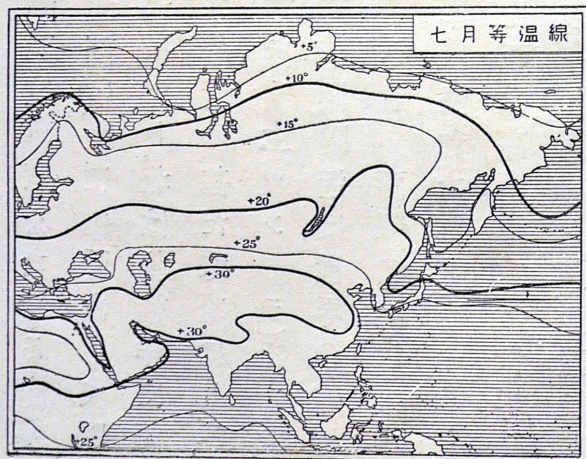
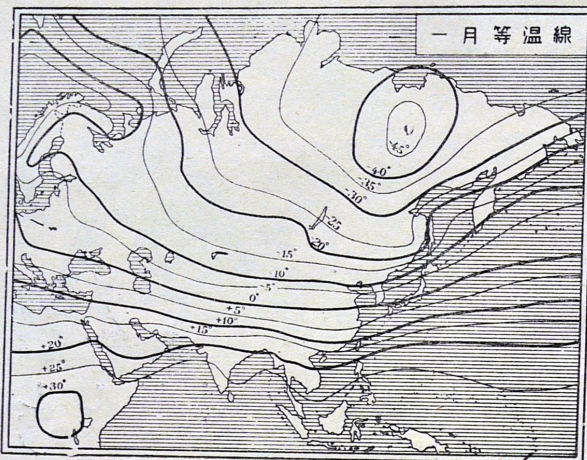
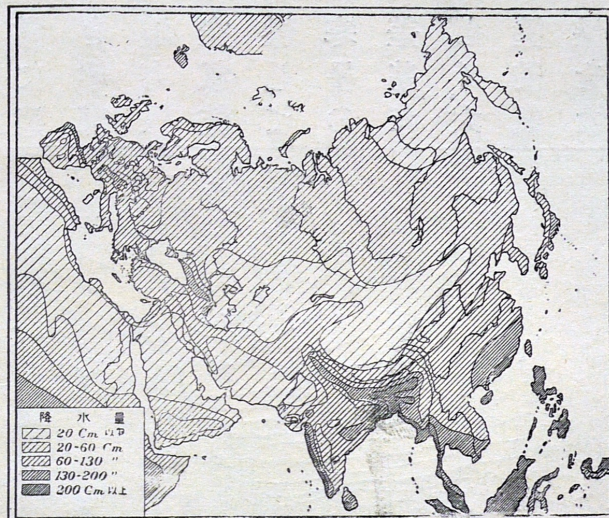
印度洋には、印度半島突出して、ベンガル灣・亞剌比亞海をつくり、其の西には亞剌比亞の大半島ありて、波斯灣と紅海とを分つ。

西方には、小亞細亞半島、地中海に突出して黑海を抱き、マル

マラ海をへだてゝ、歐洲のバルカン半島と相對す。

(ホ)氣候　本洲は寒・溫・熱の三帶に跨がり、面積廣大にして地形複雜なるが故に、氣候は一樣ならず。

海岸を距ること非常に遠き中部地方は、空氣乾燥して寒暑の差甚だしく、大陸的氣候をな

圖解　上は亞細亞洲一月等溫線下は七月等溫線

圖解　亞細亞大陸の雨量分布

し、沙漠又は草原をなせる處多し。北部は、南に山脈ありて暖風をさへぎり、北は北極洋に傾斜せるが故に、甚だ寒冷にして、極北部は凍土(ツンドラ)をなし、レナ河下流附近は、世界の寒極と稱せらる。　西部の黑海・地中海沿岸は溫和なれども、イラン・亞剌比亞の高臺地方は、世界最熱地の一と稱せられ、酷熱にして雨少く沙漠をなせる處多し。　南部及び東部は、毎年季節により一定の風吹くが故に季節風帶と稱せらる。　氣候溫和にして雨量多く、殊にブラマプトラ下流附近の如きは、世界に於て雨量最も多し。　されば農產物も從つて豐なり。

三、**天產物**　かく氣候の變化多きが故に、生物にも其の種類多し。　南部には象・虎・豹・犀・猩々・大蛇・鰐魚等の如き巨大猛惡なるもの、孔雀の如き美麗なるもの多く、又椰子樹・マングローブ等の熱帶植物繁茂し、種々の香料・

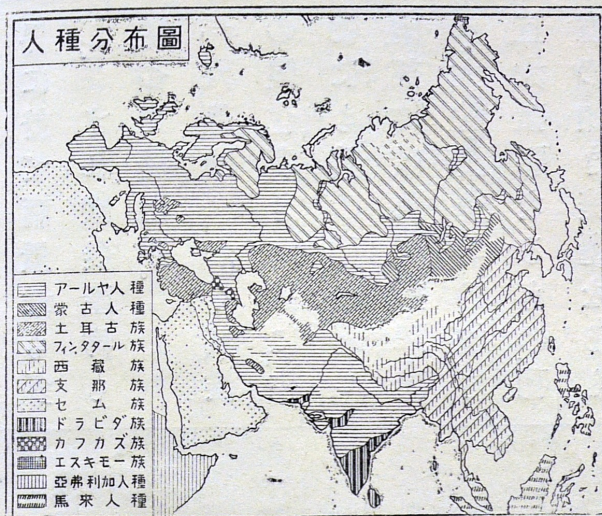
圖解　亞細亞洲の生物一班
1 豹　2 猩々　3 犎牛　4 コブラ(毒蛇)　5 孔雀　6 單峯駝　7 犀　8 水牛　9 獅子　10 駱駝　11 鰐魚　12 象　13 虎

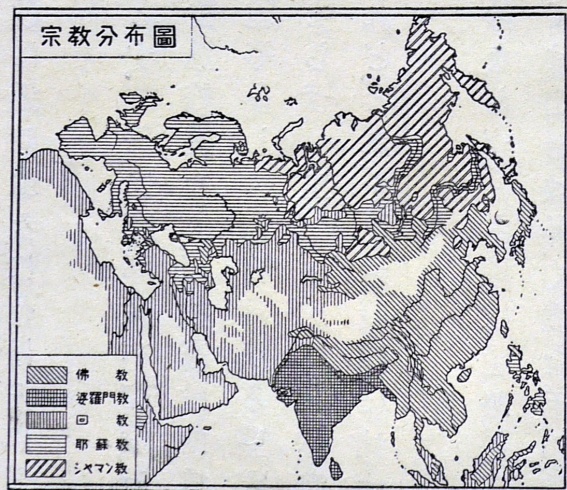
圖解　亞細亞洲に於ける人種分布

ウラル山地の金坑は概ね歐露に屬す

材木等の産多し。

南東沿海地方の平原は、米茶桑等の産地にして、中部地方には牛・馬・駱駝・犛牛等の牧畜盛なり。　北部に至るにしたがひ、植物漸次減少し、極北部には僅かに、蘚苔類をみるにすぎず。動物には、白熊・貂・狐等の毛皮獸あり。　又北東部の近海は、寒暖二流の影響をうけて、水産多く、臘虎・膃肭獸等の海獸も少からず。　鑛物は、アルタイ・ウラル山地の金、支那の鐵・石炭・カフカズ及びスマトラの石油、馬來半島の錫等を著名とす。

圖解　亞細亞洲に於ける宗教分布

四、住民　人口八億餘ありて世界全人口の半以上を占む。其の分布は地勢・氣候の狀態により一樣ならず。　南部・東部の低地及び島嶼は、世界稀なる人口稠密なる地方なれど、北部の凍土帶地方及び內地には無人の地少からず。　人種は、蒙古・アールヤ・馬來の三大人種あり。　蒙古人種最も多くして、東部に住し、アールヤ人種は南西部に、馬來人種は馬來半島及び其附近に多し。

本洲は世界大宗教の發源地なり。　佛教は我が國及び支那に行はれ、波羅門教は印度に、回教

は西部亞細亞に盛なり。　耶蘇敎は近時、處々に行はるれども、未だ盛ならず。

五、**生業**　本洲は農業を主生業とす。　殊に支那及び印度は世界の大農產地にして、米・綿・茶・養蠶等盛なり。　牧畜は內地の高原・草地に行はれ、牛・馬・豚・駱駝等多し。　鑛物は頗る豐富なる埋藏あれど、採掘未だ十分ならず。　工業は印度及び我が國・支那等、稍見るべきものあれど、これを歐米諸國に比すれば及ばざる事遠し。

六、**交通**　交通の發達は未だ十分ならず。　內地は道路も完備せざる處多く、交通機關としては、北部は多く橇を用ゐ、其の他は主として、馬又は駱駝の脊を借る。

鐵道の延長は、世界全長の十分の一にすぎず、其の最も發達せるを印度とす。　露國の西比利亞大鐵道・外裏海鐵道及び本

邦の滿・鮮鐵道等は、世界交通上に便益を與ふる事少からず。

北部の諸河をのぞき、其の他の諸大河は、概ね交通の便多し、殊に揚子江の如きは、河口より約三千粁の上流まで汽船を通ず。　北極洋をのぞき、海路の交通は比較的盛にして、上海・香港・新嘉坡・橫濱等を中心とし、亞米利加・歐羅巴・大洋洲等との交通頻繁なり。

電信は一般に敷設せられ、陸上線はもとより數條の海底電線ありて、各大洲との通信自在なり。　又、無線電信局も、近時各地に設置せられ、通信の設備ます〱整ふに至れり。

七、**區劃**　本洲は面積大なれど、多くは歐米諸國の領地・租借地又は保護地にして、獨立國と稱すべきは我が國及び支那・暹羅・波斯・阿富汗斯坦の數國に過ぎず。　而して、これ等の多くは列强勢力の平衡上僅かに其の獨立を維持せるものに

亞細亞洲の四分の一英・露・佛につぎ世界第四の大國なり

して、眞に獨立國の體面を維持し得るは、我が大日本帝國あるのみ。

第二章　支那

一、**位置・境域**　支那は亞細亞洲の中部及び東部の大部分を占め、面積一千一百萬方粁にあまり、歐洲全土よりも廣し。

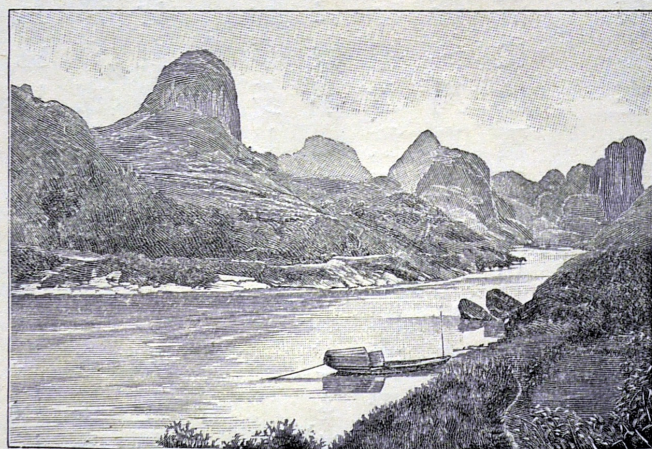
二、**地勢**　(イ)**概說**　西部及び北部は、一帶に高原不毛の地多けれども、南東部は平野廣く、土地肥え人口稠密なり。

(ロ)**山系**　國の西部には、崑崙天山・アルタイ・ヒマラヤ等の諸山系ありて、西藏高原・タリム盆地・ジュンガリア盆地・ゴビ沙漠等をつくる。　崑崙山系は、更に東にのびて、支那本部に入り、秦嶺山脈(北嶺)・伏牛山脈となり、揚子江口に至り海に沒す。これ南北支那を分つ境界線たり。　其の一脈は北東に延びて、陰山山脈・興安嶺等となる。

又、バルマと接する處には、印度支那山系縱走し、支那本部の南には南嶺ありて、南西より北東に連る。

(ハ)**水系**　西部・北部にはタリム河・伊犂河・青海・ロブノル等內陸系の河湖多く、東部は太平洋斜面に屬す。

黄河は源を崑崙山中に發し、汾水・渭水・洛水等をあはせ、渤海灣に注ぐ。　下流は洪水多く、河道しば〳〵變遷す。　沿岸黄土多く、河水黄濁せり。　舟運の利少し。

揚子江も、源を崑崙山中に發し、南流して金沙江といひ、四川

(圖解)南支那の山水

黄河は單に河と稱せらる

揚子江は一般に長江又は江と稱す

省に入り岷江・嘉陵江等をあはせ、三峡の険をすぎて平原に出づるや、漢江等の巨流をあはせ、東流して東支那海に注ぐ。長さ五二〇〇粁、亜細亜洲第一の巨流にして、下流は自由に大汽船を通じ、沿岸開港場多く、支那の富源は實にこゝにあり。洞庭湖・鄱陽湖は、ともに水路を此の河に通じ、河水の調節作用をなす。

南嶺以南は、珠江の流域にして、平野亦多し。

(二) 海岸　海岸線は比較的短く、北には小出入少けれども、遼東・山東の二半島突出して渤海灣を抱き、旅順・膠州灣・芝罘等二三の良港あり。東支那海には舟山列島あり。沿岸亦小屈曲多く良港少からず。南支那海には、雷州半島ありて、海南島と共に東京灣を抱く。

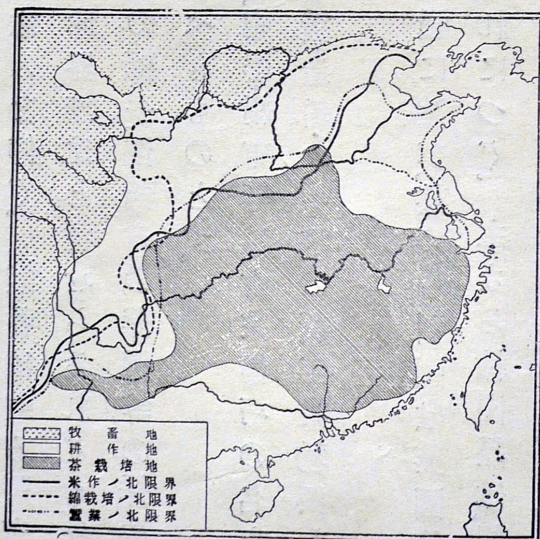
三、氣候　土地廣大なるが故に、氣候も亦一様ならず。黄河以北、西藏・新疆省等は海洋の影響少く、従って降雨稀に大陸的氣候を有す。揚子江岸は氣候中和にして、雨量亦適度なり。南部は熱帯性にして、雨亦多く、夏秋の候大風しばしば襲來す。

四、生業　支那本部の大部は、肥沃の地多く大農産地たり。北部には麥・高粱・豆等を産し、南部には米・茶・綿・阿片・桑等の栽培盛なり。高原地方は、牧畜盛にして、牛・馬・羊・山羊・犛牛・駱駝等多く、豚は食用として至る所に飼養せらる。

水産物は需要多けれども、産

圖解　支那に於ける農産物の分布

北部には畑多く南部には水田多し

古來南船北馬の諺あり、これ南清にては河川運河多ければ舟運の便多く北部は行旅馬、駱駝等の背をかりて往來する事多ければなり

額少きを以て、我が國よりの輸入を仰ぐ。鑛物は頗る豐富にして、特に鐵・石炭の埋藏は世界無比と稱せらるれども、採掘未だ盛ならず。唯直隷省の開平、江西省の萍鄕等の採炭、大冶の採鑛事業等を稍、見るべきものとす。

國民一般に手藝に巧にして、陶器・絹布等は古來精巧の名あり。近時揚子江岸に、製鐵・紡績・造船・マッチ等の新工業勃興しつゝあり。

外國貿易は、年額九億八千萬圓に及び、其の取引國は英國第一にして我が國・米・佛・露等これにつぐ。主なる輸出品は、絹・茶・綿・豆等にして、綿布・綿糸・阿片・石油・砂糖等を輸入す。上海・香港・廣東・漢口・天津等を其の中心地とす。

五、**交通**　陸路の交通は、古來馬車・轎等の便をかりしが、近來日・露・英・獨人等の經營によりて鐵道大に發達し、京漢鐵道は

鐵道哩數　四千餘哩（滿洲に於ける日・露兩國のものをふくまず）

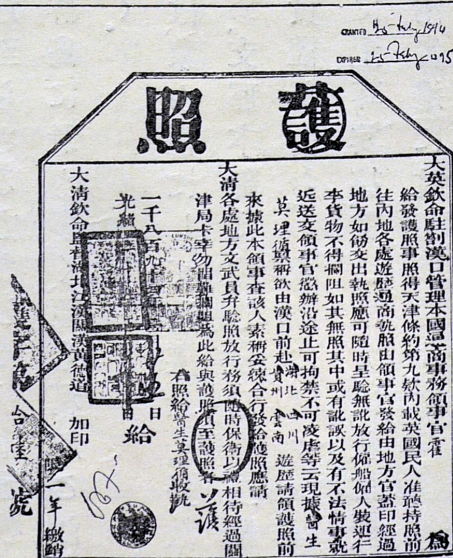
すでに全通し、將來粤漢鐵道と共に、南北支那を縱斷すべし。其の他山東・滬寧・京奉・京張・津浦等の既設線あり。水路の交通も、次第に開け、我が日清汽船會社・日本郵船會社・大阪商船會社、及び支那の招商局は、揚子江及び沿海の交通を司どる。

隋煬帝のつくりしと稱せらるゝ大運河は、天津より杭州に至り、其の長さ一千二百粁に及び、南北支那を連絡する交通路なりしが、今は小舟を通じ得るにすぎざる所あり。

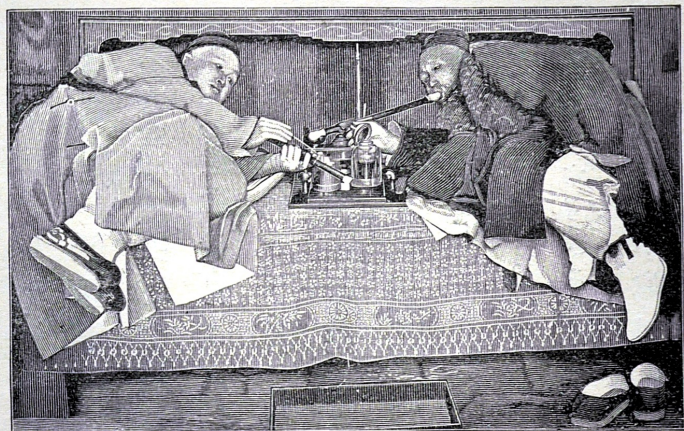
護照

大英欽命駐劄漢口管理本國通商事務領事官霍　爲
給發護照事照得天津條約第九款內載英國民人准聽持照前
往內地各處遊歷通商執照由領事官發給由地方官蓋印經過
地方如飭交出執照應可隨時呈驗無訛放行僱船僱人裝運行
李貨物不得攔阻如其無照其中或有訛誤以及有不法情事就
近送交領事官懲辦沿途止可拘禁不可凌虐等云現據英國生
莫理循稟稱欲由漢口前赴湖北 四川 貴州 雲南 遊歷請領護照前
來據此本領事查該人素稱妥穩合行發給護照應請
大清各處地方文武員弁驗照放行務須隨時保衛以禮相待經過關
津局卡守勿阻攔須至護照者　右照給英國生莫理循收執
一千八百九十四年　日給
光緒　年　月　日
大清欽命[illegible]湖北江漢關漢黃德道　加印
[illegible]號

圖解　清國下附の外人旅行券

道路は支那本部以外の地は固より一般に不完全なり。

本邦在留外人三分の二は支那人なり

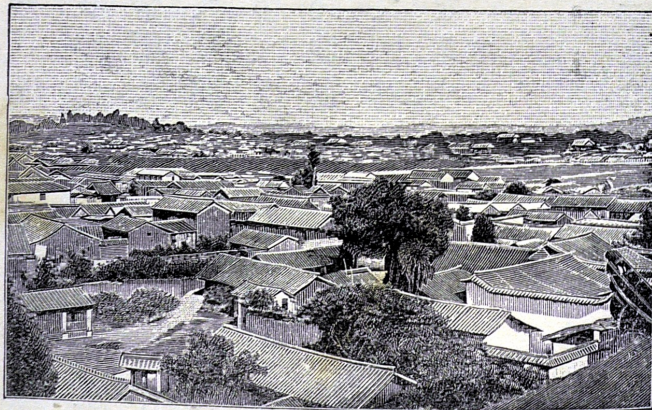
圖解　阿片喫煙

六、住民　四億三千萬卽ち世界全人口の約四分。一を有す。支那本部、特に揚子江岸及び南支那沿岸一帶は、人口最も稠密なり。されば海外に移住せるもの、其の數甚だ多く、世界各地至らざる處なし。就中、暹羅・馬來群島に最も多く、亞米利加これにつぐ。

人種は、蒙古種にして、漢族最も多數を占め、支那本部に住し、政治商工業上の實權を占む。滿洲にはツングース族多し。其の他、新疆省に土耳其族、蒙古地方に蒙古族、西藏地方に西藏族あり、又雲南省邊には苗族住す。

圖解　雲南市街

圖解　蒙古の喇嘛僧

從つて、言語の種類も甚だ多く、支那本部にて上流社會に行はるゝ官話にも、北京官話・南京官話等の別ありて、國民統一上不便少からず。

支那本部には道教・佛教盛なれど、上流社會は一般に儒教を奉ず。又蒙古・西藏には喇嘛教盛にして、新疆省には回教行はる。基督教も、近來各地に行はるれども、未だ盛ならず。

教育は、古は官吏養成を目的とせしが、近時これを改良し、多くは其の範を我が國にとり、大・中・小學堂・師範學堂等の制を設け、外國の教育者を聘し、漸次面目を一新しつゝあり。

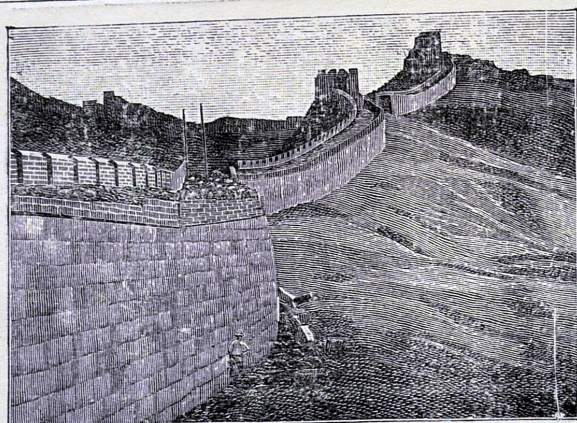
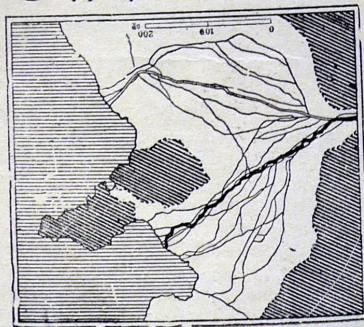
七、**政治**　支那は、宇内の舊國にして、我が徳川氏のはじめ、愛親覺羅氏に統一せられ、清と稱する帝國なりしが、明治四十四年揚子江流域に騷亂起り、忽にして全國に彌蔓し、つひに四十五年、共和政となる。　大總統ありて行政を統べ、其の下に國務總理あり、外交・内務・財政・教育・司法・農林・海軍・陸軍・工商・交通の十部を置き、各部に總長ありて、國務を分擔す。　又各省には都督あれど、秩序の回復未だならず。　今後の形勢、豫期すべからず。

第一節　支那本部

支那本部は、地形上、北部・中部・南部の三となす。

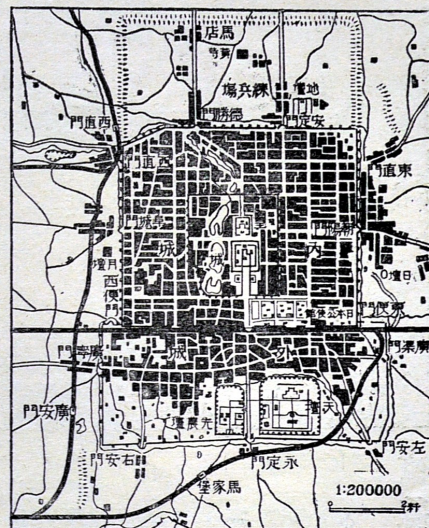
圖解　黄河河道の變遷

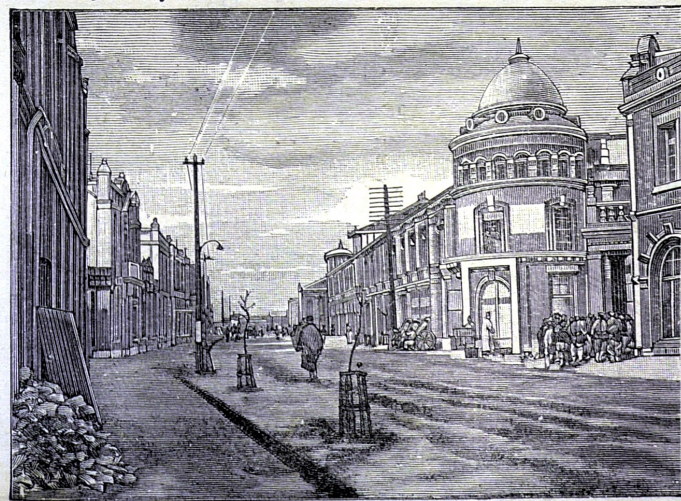
圖解　萬里の長城

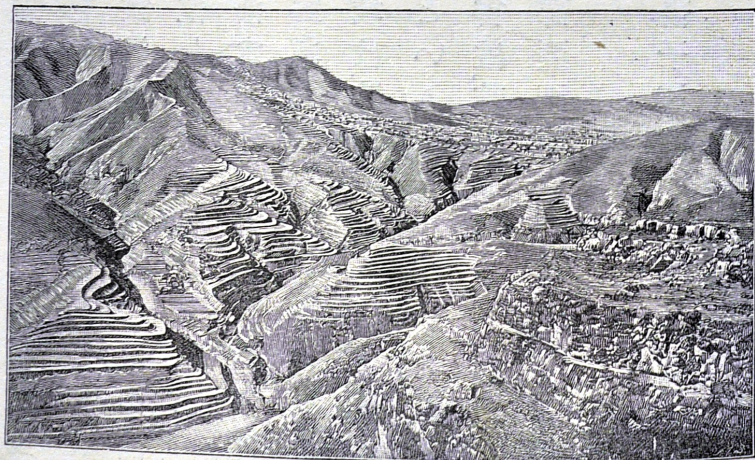
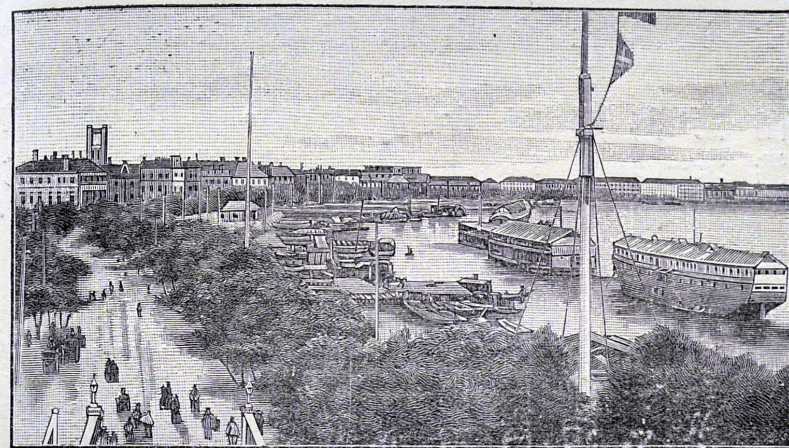
一、**北部**　主として、黄河流域地方にして、北は萬里長城及び陰山山脈によりて、滿洲・蒙古と境を接す。

古來の帝都は、概ね此の内にあり。　萬里長城は大運河と共に支那の二大工事と稱せらる　西は甘肅省の嘉峪關より起り、東は直隸省の山海關に至る。　長さ三二〇〇粁、其の大部は、秦の始皇帝が北方蠻民の侵入を防がんため築きしものなれども、今は頽廢し、處々に關を設け、旅人を檢査し、出入の貨物に課稅するにすぎず。

直隸省は、渤海灣の西岸にあり、省城

我が公使館は北京にあり

圖解　北京市街及附近

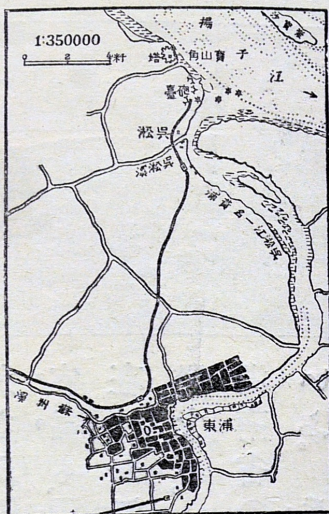
圖解　天津市街

を保定府といふ。支那の首府北京(八十萬)は、省の中央にあり。城廓を繞らし、内外二城にわかる。内城には、共和國官衙あり、外城は商業盛なり。北西に張家口あり。蒙古を經て西比利亞に到る門戸にあたり、羊毛皮革の取引盛なり。北京より京奉鐵道によりて、南東に向へば

圖解　黄土地方の景

天津(八十萬)あり。白河の下流、大運河の會する處にあり、北清第一の開港市にして羊毛・磚茶の取引盛なり。秦皇島は不凍港にして、開平炭を輸出す。山海關は京奉鐵道の一驛なり。

山東省は、繭紬・大豆の産多く、人口また稠密なり。域内に、五岳の一たる泰山あり。省城を濟南といふ。其の南、曲阜には孔子の廟あり。芝罘(烟臺)は渤海の咽喉を扼する開港場なり。

圖解 上海の埠頭

山西省は、地味瘠せたれども石炭多し。省城を太原といひ、京漢鐵道に連絡する鐵道あり。河南省は山西省の南に位し省城を開封といふ。河南府は洛水の北にあり。附近に洛陽の遺跡あり。

渭水の流域は、陝西省にして、省城を西安府(百萬)といふ。古の長安これなり。甘肅省は、其の西に位し、省城蘭州府は、西部亞細亞との交通の要衝にあたる。

二、中部　揚子江流域の豐沃なる地方なり。

圖解 上海及び附近 上海に我が總領事館在す

江蘇省は、浙江省とゝもに、揚子江の河口を占め、此の國第一の米・生絲の産地なり。上海(六十五萬)は、呉淞より黄浦江を溯ること、十一海里の處にある開港場にして、此の國貿易の中心をなし、生絲・茶の輸出多く、又近來綿絲紡績盛となれり。省城江寧(二十七萬)は一に南京といひ、江岸に位す、附近に古跡多し。鎭江(十八萬)は大運河と江との會點にある開港場にして絹の産あり。

浙江省の省城を杭州(三十五萬)といふ。錢塘江にのぞみ、海嘯を以てあらはる。寧波(四十萬)は我が國史に其の名高し。

江を溯れば蕪湖・省城安慶あり。ともに安徽省に屬す。

圖解　漢陽の大別山より漢江及び漢口の市街を望みし景　圖を横斷する大河は揚子江　揚子江の彼岸に遠く見ゆるは武昌

圖解　漢口・武昌・漢陽附近

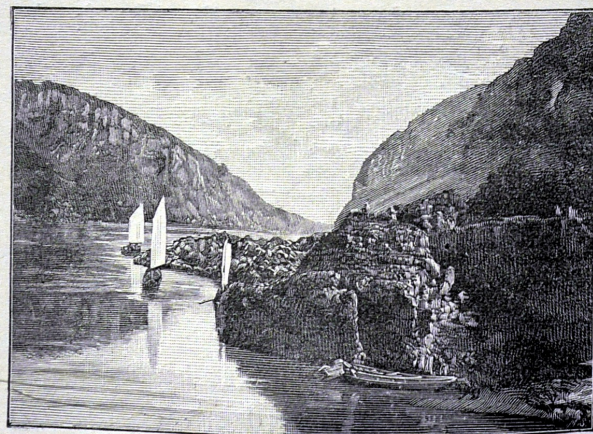
九江は、江西省の開港場にして、茶の輸出多し。　景徳鎭は陶器の産に名高く、省城南昌附近よりは紙の産多し。

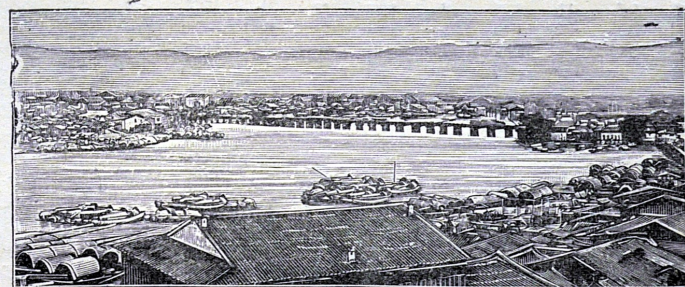
湖北省に入れば漢口（八十二萬）あり、漢江と江との會點に位し、漢陽・省城武昌と鼎立し、京漢・粤漢鐵道の起點にして、貨物の集散夥しく、茶・綿の輸出盛なり。　漢陽には壯大なる製鐵所あり。宜昌も、開港市にして、現在は長江汽船航路の終點たり。

湖南省の省城を長沙といふ。　岳州は、洞庭湖の揚子江に注ぐところにありて、此の省の咽喉をなす。

四川省は、揚子江の上流に位せる盆地にして、米・高粱・阿片等の農産多く又蠶絲に名あり。　省城を成都といふ。　重慶は、嘉陵江の揚子江に會するところにある開港場なり。

四川省の南に、雲南・貴州の兩省あり。土地不毛にして苗人多し。　ともに同名の省城を有す。此の邊、又鑛産多く、佛領印度支那・英領バルマに近き邊要の地なり。

圖解　揚子江の風景

三、**南部**　主として南支那海斜面を云ひ、多くは珠江の流域

圖解　福州の景

にあたる。

福州（六十二萬）は福建省の省城にして、我が臺灣の對岸にあり。閩江の下流に位する開港場にして、漢口・九江と共に茶の三大輸出港なり。附近に有名なる馬尾造船所あり。

厦門（十一萬）は、我が臺灣の淡水港と交通盛なる開港場にして、又海外出稼人の重要門戸なり。　省城廣東（百萬）は珠江の三角洲にあり、南部第一の都會にして、絹織物・茶の輸出多し。　廣西省の省城を桂林といふ。　龍州は佛領印度支那に近き貿易場なり。　海南島には開港場瓊州あり。

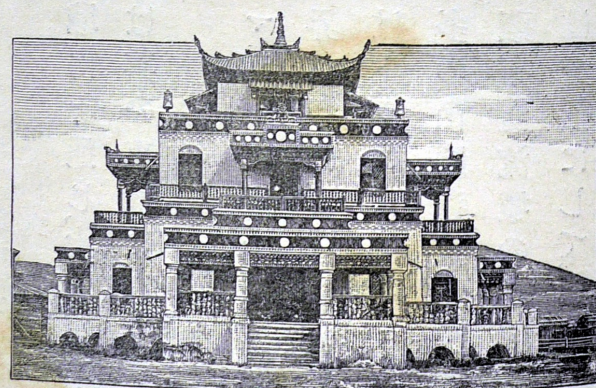
第二節　蒙古

圖解　蒙古の喇嘛寺

蒙古は、ゴビ沙漠によりて、内外蒙古の二部に分たる。　土地不毛にして、土人多くは遊牧を事とす。

庫倫は外蒙古の中心にして、壯麗なる喇嘛教寺院あり、商業・宗教の中心をなす。　賣買城は木柵によりて、露領西比利亞のキャフタに接し、茶の取引盛なり。

第三節　新疆省

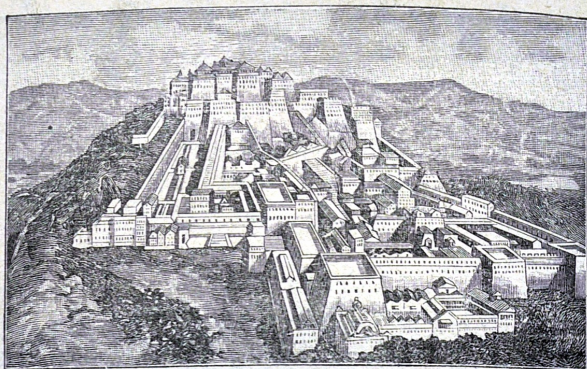
新疆省は支那の西端にあり、天山山系によりて、天山北路（ジウンガリア盆地）・天山南路（タリム盆地）の二部となる。　南路は、タクラマカン沙漠中央を占め、ヤルカンド・ホタン・カシガル等の都邑、其の緣邊にあり。ホタン附近よりは玉及び砂金を産す。　北路

圖解　西藏人の風俗

は支那本部と西域との交通の要路たり。ウルムチ(迪化府)は省城所在地にして、クルヂア(伊犂)は露西亞國境に近き要地なり。

第四節　青　海

青海は支那の略、中央を占め、崑崙山系域内を通じ、土地不毛にして住民少し。有名なる鹹湖青海は其の東部に在り。

第五節　西　藏

西藏はヒマラヤ・崑崙兩山系間にある世界第一の大高原にして、域内にはトランスヒマラヤを始め、幾多の山脈連亘し、稍開けたるは藏布河流域のみ。土人の過半は僧侶にして、犛牛・羊・麝香等は主なる輸出品なり。

首都拉薩は、藏布河の支流の沿岸にありて、壯麗なる達賴喇嘛の宮殿あり。支那政府は此の地に官吏を派して、其の内政を監督す。亞東は印度境上に近き貿易市なり。

圖解　拉薩に於ける喇嘛教の大本山

第六節　列國の領地及び租借地

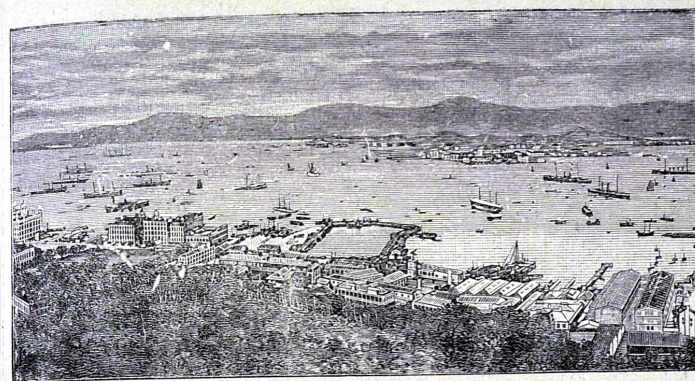
威海衞は、山東半島の北岸にあり、前面に劉公島を控へ、天然の良港なり。二十七八年戰役までは北洋水師の軍港なりしが、今は英國の租借地となれり。

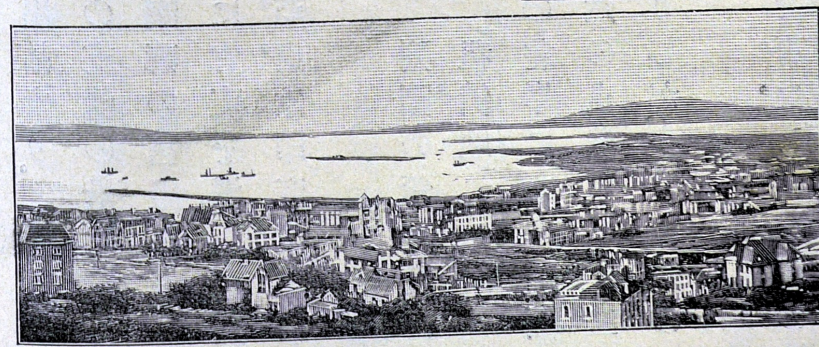
膠州灣は山東半島の南岸にあり。都會を青島といひ、灣の

圖解 膠州灣

圖解 膠州灣の青島

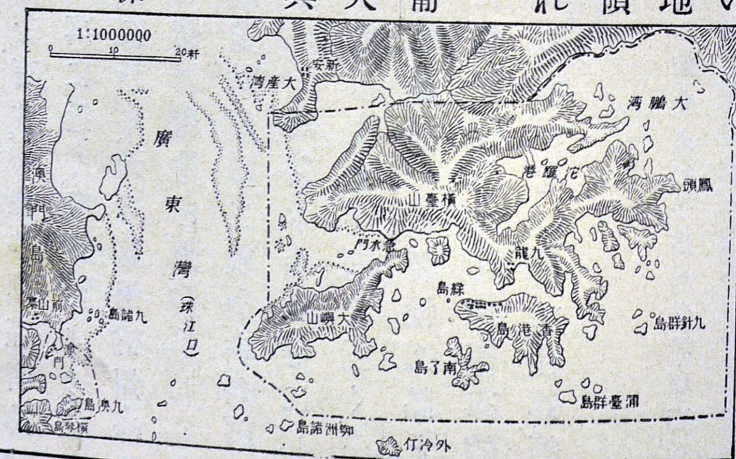
圖解 香港ビクトリアの光景　對岸は九龍

香港に我が總領事及び商務官駐在す

東端にあり。獨逸これを租借して、商港及び東洋艦隊の根據地となし、且つ青島より濟南府までの鐵道を布設し、其の沿道の鑛山採掘權を得たり。

香港は廣東灣内の一小島にして、阿片戰爭の結果英領地

圖解 香港及び澳門附近

となれり。港市をビクトリアといひ、自由港にして東洋貿易の中心地なり。對岸の九龍地方も、英國の領地にして、附近一帶は租借地となれり。英國東洋艦隊の根據地なり。

澳門は廣東灣の南西海岸にある葡萄牙領にして、昔は我が國にては天川と稱し、盛なる港なりしが、今は其の繁華を香港に奪はれたり。

廣州灣は佛國の租借地なり。

第七節　本邦との關係

本邦と支那とは、同文同人種の國にして、然も一葦帶水を隔つるのみな

れば、古來より極めて密接なる關係を有す。　我が國在留外人の六割は支那人にして、其の數一萬に近く、我が國より彼の地に在留せるもの丶數は三萬人に近く、天津・蘇州・杭州・沙市・福州・漢口・厦門・重慶等には、我が專管居留地あり。日支貿易は、近時大いに進步し、我が貿易額の二割を占む。重要輸出品は、綿絲・石炭・燐寸・精糖・金巾・洋傘・銅・水產物等にして、其の額九千萬圓にあまり、輸入總額は七千萬圓に近く、生綿及び繰綿・豆類・鐵・粗製糖・苧麻・羊毛・革類等を重要輸入品とす。　在支那本邦總領事館數は、十にして、在外本邦總領事館數の二分。一弱にあたり、領事館は、其の數十七にして、在外領事館總數の三分。一弱にあたる。

本邦總領事館所在地　哈爾賓・奉天(新民府分館)・間島局子街・頭道溝・琿春各分館)天津・上海・漢口・廣東・香港

本邦領事館所在地　齊々哈爾・吉林・長春・鐵嶺・遼陽・安東・牛莊・芝罘・蘇州・杭州・南京・長沙・沙市・重慶・福州・厦門・汕頭

第三章　亞細亞露西亞

面積　千二百四十四萬方粁
人口　七百八十八萬

亞細亞露西亞は、亞細亞洲の北部一帶の地を占め、其の面積大陸の四割にあたる。　露西亞政府は、これを行政上、西比利亞・中央亞細亞・カフカズの三に大別す。

第一節　西比利亞

一、**位置・境域**　支那の北方より、北極洋に緩斜する北部亞細亞の大部分を占め、西は歐羅巴露西亞に接す。　面積千二百餘萬方粁、乃ち我が國面積の約二十倍にあたれど、人口は八百萬に足らず。

二、**地勢**　南境最も高く、北西に向ひて低下し、地勢自ら四帶

となる。

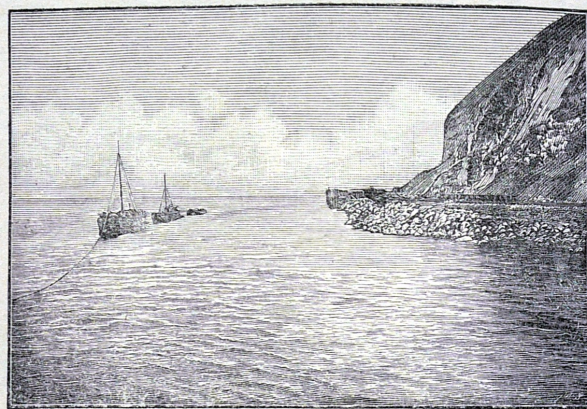
(一)**高地帶**　最南部にありて支那との境をなせる山嶽又は高臺地方なり。即ちアルタイ山脈・ヤブロノイ高臺・スタノボイ山脈等を其の主なるものとす。又日本海沿岸にはシホタ山脈あり。カムチャツカ半島は山概して高く、殊に火山多くして其の脈我が千島諸島に連絡せり。

(二)**草野帶**　大約北緯五十五度以南の平野にして特に南西部に發達せり。

(三)**森林帶**　草野帶以北北緯六十五度邊までを云ふ。樺松・樅等の密林多く、又毛皮獸多し。

(四)**凍土帶**　最北部にあり、低平にして氣候寒烈なるがため、土地凍結し、夏期には其の表面僅かにとけて雜草生じ水禽來り遊ぶ。

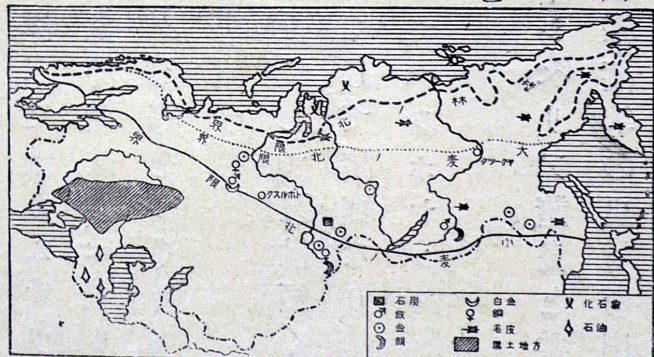
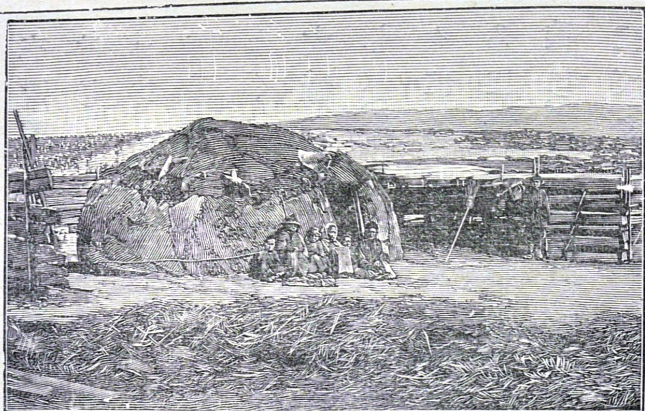
河流は多く北極洋斜面に流る。オブ・イェニセイ・レナの三大河は、其の主なるものなり。たゞ黒龍江は、東流して、松花江・烏蘇里江等をあはせ、間宮海峽に注ぐ。何れも水勢緩なれど、冬期氷結の不便あり。湖は中部の南境に近く亞細亞第

圖解　バイカル湖岸の鐵道

一の淡水湖バイカルあり、イェニセイ河支派の上流をなす。北海岸は、オブ灣・タイミル半島等の屈曲ある外、出入乏し。太平洋岸には、カムチャツカ半島突出し、樺太島横はり、ベーリング海・オホーツク海等をつくる。海岸一帶不凍港を見ず。

氣候・生業　大陸性にして、夏は短くして暑く、冬は長くして酷寒なり。一般に寒冷にして、ベルホヤンスク附近は、世界の寒極と稱せらる。凍土帶附近は、一般に不毛なれども、ニューシベリア諸島と共に、マンモースの牙を出す。森林帶には樺・樅等の良材を出

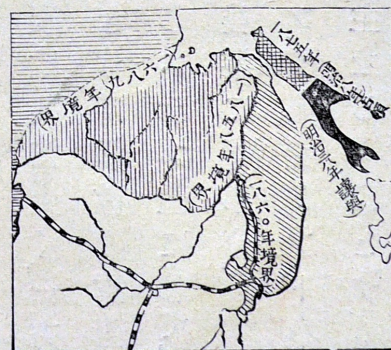
圖解 西比利亞の天產物
コマンドル諸島は海獸の繁殖場なり

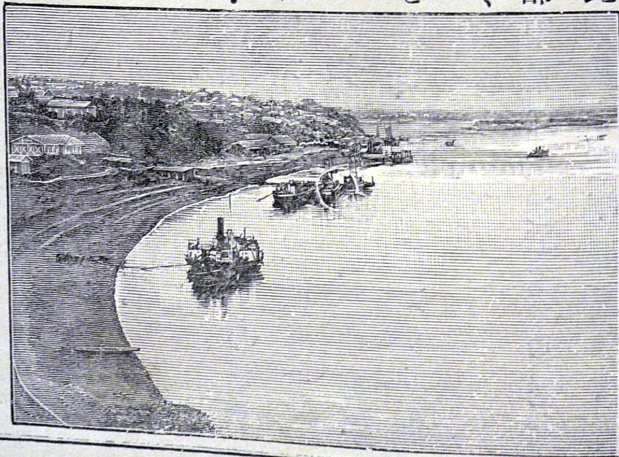
し、狐・貂等の毛皮獸多し。農牧業は南西部を最とし、小麥・牛酪の產多し。アルタイ山には金多く、其他銀・石炭・石墨も各地に產す。東部の近海は世界三大漁場の一にして、臘虎・膃肭獸・鯨等の海獸及び鰊・鱈等少からず。河川には鮭・鱒多し。工業は未だ盛ならず。內地商業は、今なほ年市により行はること多く、外國貿易は、浦鹽斯德・ニコライエフスク・キァフタ等を其の中心となす。

四、**交通**　內地には車馬橇等多く用ゐられ、夏季には水路の交通自在なり。西比利亞鐵道は、一九〇一年の起工にして、チェリアビンスクに起り、オムスク・クラスノヤルスク・イルク

圖解 ブリアト人の家

ツク等をすぎ、カイダロボにて東清鐵道を出し、哈爾賓を經て浦鹽斯德に通ず。かくて極東と歐羅巴との距離は、著しく短縮せられたり。又浦鹽斯德よりハバロフスクに至る線路あり。近時露西亞政府は、此の地よりストレチェンスクに至る所謂黑龍江岸鐵道の工事を急ぎつゝあり。

五、**住民**　住民の密度は甚だ少く、一方粁につき〇、五にすぎず。多數は露西亞本國より移住せしスラブ種にして、希臘教を奉じ、採鑛・農業に從事す。土人は其の數少く、フィン人・ブリアト人・ヤクト人等を、其の主なるものとす。

圖解　支那と露西亞との境界

六、沿革・政治　露西亞の西比利亞遠征をはじめたるは、西暦十六世紀イバン四世、コサックの酋長イェルマクをして、オブ河流域のシビル汗をうたしめたる時にあり。かくて漸次其の國境を東に進め、ペテロ大帝の頃には、清國と境を接するに至りしが、清の聖祖は使をつかはして、兩國の使臣をネルチンスクに會合せしめ、外興安嶺を以て兩國の境界とせり。しかるに、清國は其の後長髮賊の亂等のため、外を顧る暇なきに乘じ、露西亞は、漸次黑龍江岸を占領し、愛琿條約(一八五八年)にてこれを確定し、更に英・佛聯合軍の北京に侵入せし時、其の間に斡旋して、烏蘇里江東の地を得、浦鹽斯德市を建設せり。ついで我が國と交涉して樺太島を收め、更に滿洲方面に手をのばさんとして、三十七八年戰役を惹起し、樺太の南半を、我れにゆづるに至れり。

現今は行政上、黑龍江地方・東部西比利亞・西部西比利亞とに大別し、西部西比利亞は本國內務省の直轄とし、他の二部には總督を置きてこれを治む。

七、地方誌　黑龍江地方は沿海州・カムチャッカ州・黑龍江州・外バイカル州・樺太島北部をふくみ、ハバロフスク(四萬)に總督駐在す。*浦鹽斯德(九萬)港は、ペテロ大帝灣內にある西比利亞第一の開港場にして、

圖解　ハバロフスク港

*我が總領事館所在地なり

又露西亞西比利亞艦隊の根據地なり。冬期氷結すれど、碎氷船の設あり。西比利亞大鐵道これより起り、又露國義勇艦隊は東亞諸港及び本國オデッサ港との間を航海す。我が敦賀との交通も、日を追うて盛大となれり。

ニコライエフスクは、黒龍江の河口に位し、漁業の中心なり。カムチャッカ半島は山多く、ペトロパウロフスクを主邑とす。樺太島は、明治三十八年南半を我にゆずりたれば、今は北半のみ此の國の領なり。間宮海峽に面し、其の主邑アレクサンドロフスク港あり。

ブラゴベシチェンスク(四萬)は、黒龍江の中央に位し、支那の愛琿に近き要地にして、此の附近には金坑多く、黒龍江州の首府なり。チタ(四萬)は、外バイカル州の首府にして、キァフタは支那の賣買城と接し、茶の取引大なり。

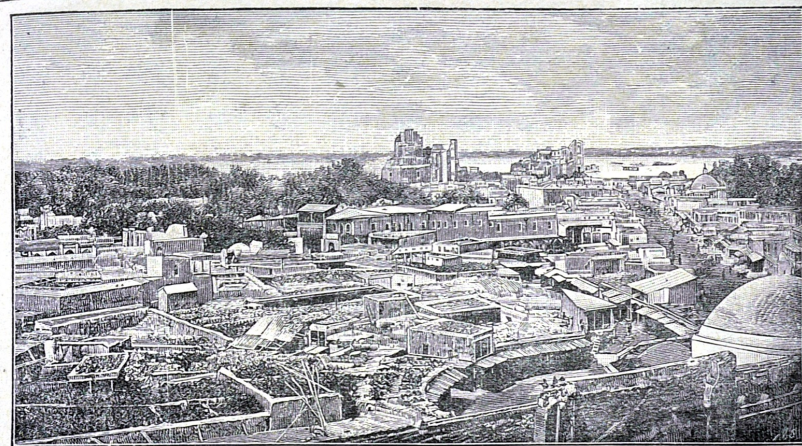
面積　三百四十五萬方粁
人口　九百六十萬

東部西比利亞は、ヤクツク州・イルクツク・イェニセイスクの二省を含み、アンガラ河に沿へるイルクツク(八萬)に總督駐在す。ヤクツクはレナ河沿岸にあり。毛皮象牙の取引盛なり。イェニセイスク省にはクラスノヤルスク(六萬)あり。西比利亞鐵道の一驛なり。

西部西比利亞はトボルスク・トムスクの二省を云ひ、オブ河の流域にあたり、麥の產多し。トムスク(十萬)は西比利亞有數の都會にして、大學及び博物館の設あり。西比利亞鐵道とは支線にて連絡す。トボルスクはトボルスク省の首府なり。

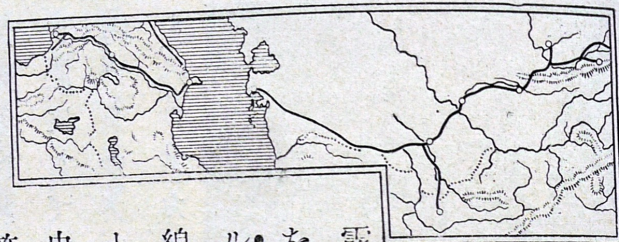
第二節　中央亞細亞

一、**地文**　裏海の東、西比利亞の南西にあたり、面積我が國の五倍にあまる。南東は高けれども、中央にはツラン・キルギ

圖解　サマルカンド市街

スの低地をつくり、アラル海・バルハシ湖等あり、アム河・シル河は前者に、伊犁河は後者に注ぐ。

氣溫の劇變多く、降雨少ければ、河畔の地以外は沙漠又は草野をなすところ多し。キルギス人は、これ等の草野を利用し、馬・駱駝・牛・羊等を養ひ、河畔には土耳其族土着して、米・綿・果物等をつくる。

二、**人文**　全土をステップ・トルキスタン・外カスピの三地方及びヒバ・ボハラの二屬國とす。タシケント（十九萬）はシル河流域にあり。トルキスタ

圖解　裏海附近の鐵道系

面積　四十七萬方粁
人口　一千一百萬

ン總督の駐在地にして、羊毛・生絲の産多し。サマルカンド（八萬）は帖木兒の舊都にして、附近に壯大なる墳墓あり。オムスク（九萬）はステップ總督の駐在地なり。

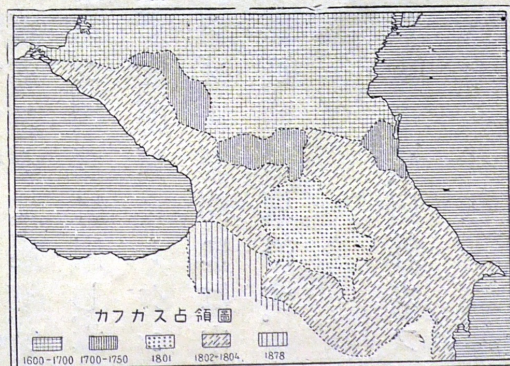
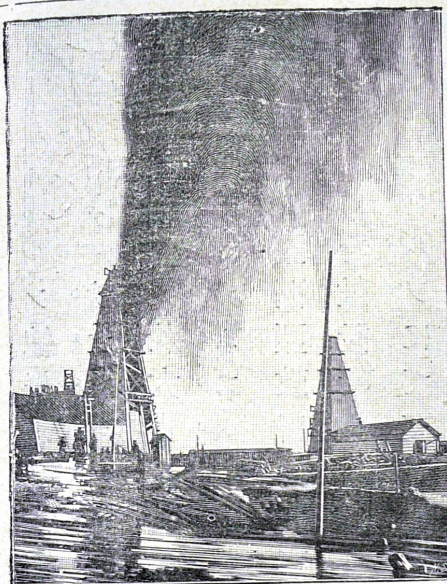
露西亞政府は、軍事上の必要より、外カスピ鐵道を敷設せり。即ちクラスノボドスクに起り、メルフにて支線をアフガニスタン國境に出し、本線は更にボハラ・サマルカンドを經てタシケントに至る。タシケント・オレンブルグ間には中央亞細亞鐵道ありて、歐羅巴露西亞に連絡す。

第三節　カフカズ

黑海・カスピ海にはさまれ、カフカズ山脈によりて、内外カフカズの二部となる。

圖解　カフカズ占領圖

圖解　バクーに於ける石油噴出の光景

カフカズ山脈は、高峻にして交通不便なれど、今は鐵道其の兩側に通ず。住民は種族多けれども、特に有名なるはカフカズ族にして、容貌の美なるを以て聞ゆ。内カフカズは草野にして、産物少けれども、外カフカズは溫暖にして小麥・葡萄・茶等の産物あり。

首府チフリス（二十萬）は、亞細亞露西亞第一の都會にて總督駐在す。バクー（十九萬）はカスピ海岸にありて、裏海艦隊の根據地なり。附近は米國に

圖解　カフカズ族の風俗

つげる石油産地とす。バツーム（三萬）は黒海沿岸にありて、石油の大輸出港なり。

第四章　亞細亞土耳其

面積　百八十萬方粁
人口　一千七百萬

土耳其帝國の一部にして、本洲の西端に位し、アルメニア・小亞細亞・メソポタミア・シリア及び紅海沿岸に分たる。

アルメニア　イラン高臺につらなる高原地にして、有名なるアララット山あり。

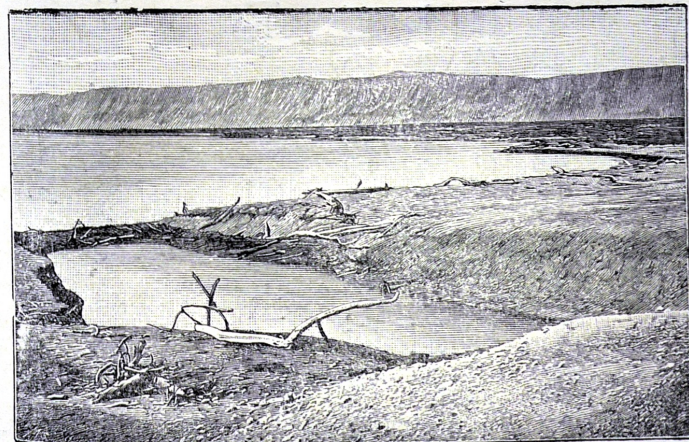
二、**小亞細亞**　黒海・地中海にはさまれたる半島にして、タウルス山脈南岸に聳え、一帶の高原をなし、葡萄・生絲の産あり。土耳其人多けれど、商權は海岸に住する希臘人の手にあり。

圖解　死海

湖水鹽分多く魚族生息せずこれ死海の稱ある所以なり

スミルナ(三十五萬)港は多島海に面し、乾葡萄の輸出多し。キプロス島は、一八七八年(伯林會議)以來英領となれり。

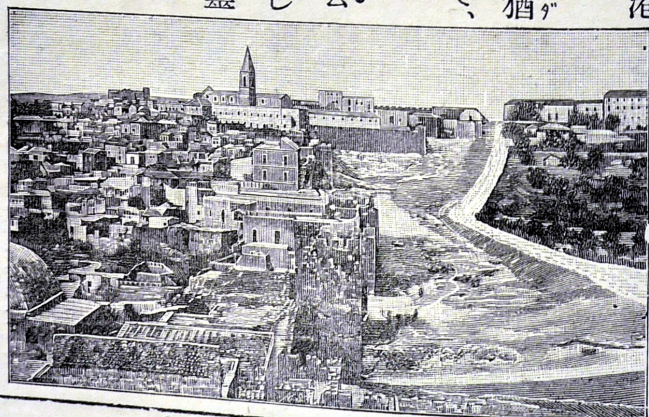
二、**メソポタミア**　チグリス・エウフラト兩河の流域にあり、昔時文化の燦然たりし地方にして、バビロン・ニヌアの遺跡今なほ尋ぬべし。バグダート(十八萬)は中古回教國の首都たりし處にして、今なほ此の地方第一の都會なり。

三、**シリア**　地中海の東岸一帶の地にして、有名なるヨルダンの溪谷あり。其の最低部を死海とす。ダマスク(三十五萬)は此の地方商業の中心地

圖解　ベイルトの埠頭

圖解　イェルサレムの市街

面積　三百七十三萬方粁

にしてベイルト港(十五萬)を咽喉とす。イェルサレム(八萬)は猶太國の舊都にして、基督の墳墓あり。附近のベテレヘムは其の誕生地にして、ともに同教の靈地とす。

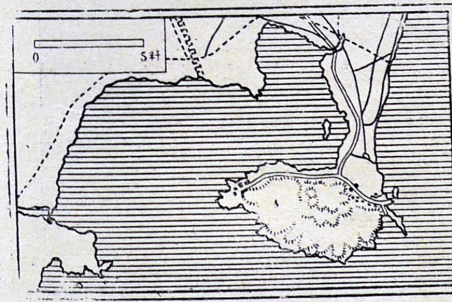
第五章　亞剌比亞

世界最大の半島にして一般に高臺をな

圖解　亞剌比亞人の風俗

圖解　アデン及び其の附近

す。○內地は酷熱にして雨少く、沙漠多し。　海岸地方には棗椰子・珈琲等の產あり。　殊に馬と護謨とは有名なり。

紅海岸と波斯灣岸の一部とは、土耳其帝國に屬し、アデン附近は英領なり。○オーマンは酋長國にして、英吉利の保護をうく。其の他各地に酋長ありて統一せず。

メッカ(八萬)は回教祖ムハメットの誕生地にして、メヂナ(四萬)は其の墳墓の地なれば、巡拜者常に絕えず。

アデン(四萬)は、バベルマンデブ海峽に近く、紅海の咽喉を扼す。　其の附近なるペリム島と共に英領なり。

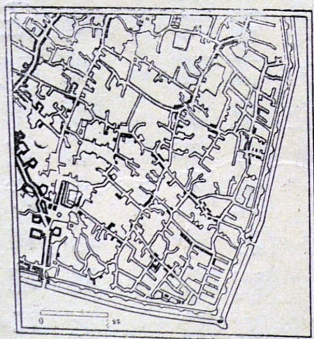
波斯灣內のバーレン諸島には眞珠の產あり。

圖解　テヘランの市街圖

面積　百六十萬方粁
人口　九百五十萬

第六章　イラン地方

イラン地方は、略、ヒンヅークシ・エルブールズ山脈以南の高臺なり、內地は酷熱にして、沙漠をなし鹹湖多し。　高臺の邊緣の地は、稍、肥沃にして穀物・果實・綿・阿片等の產あり。　住民はイラン族にして、回教を奉じ遊牧を業とす。　政治上波斯・アフガニスタン・ベルヂスタンの三部とす。

一、**波斯**　波斯はイラン地方の西部を占め、其の面積我が國の二倍に餘る、立憲君主國なり。　國民は一般に農牧をつとめ、

又絹織物・護謨の產あり。首府テヘラン(二十八萬)は北方山地にあり。タブリーズ(二十萬)は、カフカズに近き商業の中心地とす。

此の國は、英・露兩强國の間にはさまれ、其の國力平衡上、僅に獨立を保てるにすぎず。近時英・露間に協商成り、此の國の北部は露國、南東部は英國の勢力範圍と定めたり。

二、**アフガニスタン**　高臺の北東部を占め域內山多し。カブールの酋長最も勢力あり。此の地も、英・露勢力の衝突地にあたり、僅かに其の獨立を維持せり。

三、**ベルチスタン**　北東部は英國の直轄領にして、他は其の保護地なり。後者に於てはケラットの酋長最も勢力あり。

第七章　印度

面積　四百五十九萬方粁
人口　三億一千萬

一、**位置・境域**　印度洋に突出せる大半島にして、錫蘭島を南端に控へ、東をベンガル灣と云ひ、西を亞剌比亞海と稱す。面積は我が國の七倍に近し。

二、**地勢**　地勢上、ヒマラヤ山地・印度平原・デカン高臺の三部に分つ。

ヒマラヤ山脈は、北方に聳立せる一大墻壁にして、其の峠の如き、何れも數千米を超え、交通甚だ不便なり。此の山中にネパール・ブータンの二獨立國あり。

印度平原は、インドス・ガンガ・ブラマプトラ三大河の流域にあたり、西方少許の沙漠地をのぞく外は、土地肥え雨量多く農產に適す。特にガンガ河は、ヒマラヤ山中より發し、此の平原を東流し、ブラマプトラ河と共に一大三角洲をなして、ベンガル灣に入る。交通灌漑の利極めて大なり。

デカン高臺の一部は火山岩臺地に屬す

圖解　印度に於ける雨量の分布

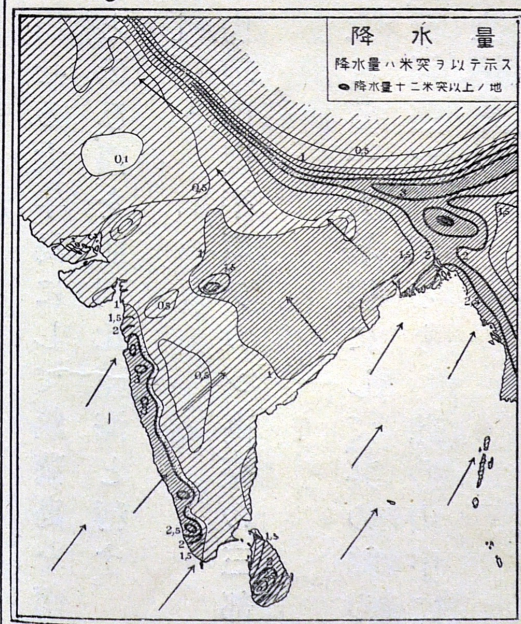
季節風弱く降雨少き時はしばしば大飢饉を起すことあり

デカン高臺は、印度平原の南にあり、東ガッツ山脈・西ガッツ山脈に挾まれたる三角形をなせる臺地にして、綿を產すること多し。土地は東に緩斜すれば、河川の多くは東流す。海岸は、單調にして良港に乏し。西岸にはカッチ灣・カンベイ灣等あれど、沿岸は遠淺なり。錫蘭島とコロマンデル海岸との間には、アダム橋あり。

三、**氣候**　大部分熱帶に入るが故に、一般に高溫なれども、北方山地は溫和にして、夏季の避暑地たるに適す。又夏期は南西季節風ありて、ヒマラヤ山地及びマラバル海岸等に多量の

降水量

降水量ハ米突ヲ以テ示ス

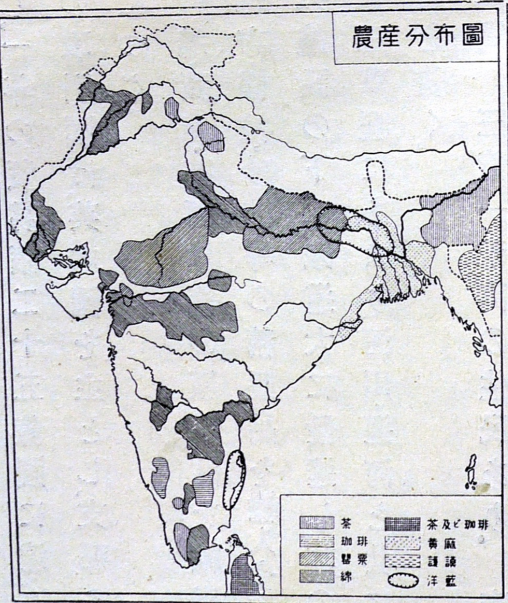
降水量十二米突以上ノ地

圖解　印度に於ける農產物の分布

濕氣をもたらし、殊にブラマプトラ河下流地方は、雨量甚だ大にして、世界の最多雨地あり。

かく濕熱なるを以て、動植物の生育甚だ盛にして、榕樹・チーク樹等の大森林あり、又象・虎・豹等の野獸をはじめ、鰐魚・毒蛇等少からず。

四、**生業・交通**　印度は、世界屈指の大農產國にして、米・麥・阿片・綿・茶・珈琲・藍・黃麻等の產極めて多し。綿絲紡績も近時隆盛に赴き、東洋市場に於ける我が勁敵なり。

外國貿易は、近時大に發

農產分布圖

圖解　孟買に於ける綿の荷造り及び運搬

ヒンドスタニ語はサンスクリット語の轉訛せしものなり

達し、一年の貿易額二十五億圓に達す。其の取引國は、英本國を主とし、支那これにつぐ。主に綿・黃麻・茶・阿片等の原料品を輸出し、綿布・機械・砂糖等の精製品を輸入す。英人施設の下に、鐵道大に發達し、其の延長三萬哩にあまり、河川・運河と共に交通を助く。

五、**住民**　三億一千萬の住民あり。密度の大なるを以て著る。ドラビダ種族は最も古き住民にして、今はデカン高臺の一部に住するのみ。主なるものはヒンヅー種にして、ヒンドスタニ語を用ゐ、僧族・士族・平民・奴隸の

四階級に分れ、其の別甚だ嚴なり。此の地方は佛教興隆の地にして、釋尊の遺跡多けれど、佛教は現時錫蘭島に行はるゝのみ。住民の多數は、ヒンヅー教(ブラモン)を奉じ、回教信者これにつぐ。

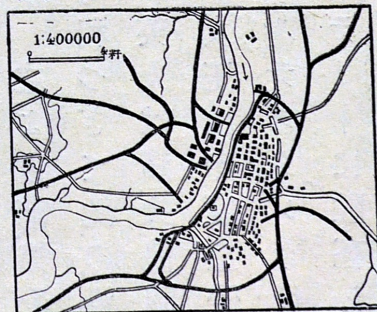
六、**沿革・政治**　今より數千年前は、此の地の文明大に進歩せしが、其の後漸く振はず。第十六世紀の初に至り、帖木兒の裔バベル莫臥兒帝國を興し、アクバル大帝に至り、四隣を征服し勢を張らんとせしが、死後また振はず。之より前、第十五世紀の終より、葡人・西人・蘭人・英人・佛人等相つぎて此の沿岸に來り、各國人の間に競爭盛に起りしが、英人は漸次他國人を壓し、莫臥兒帝國を亡ぼし、ビクトリア女王は印度皇帝と稱するに至れり。其の後緬甸を合せ、ベルチスタンを加へて、印度帝國と稱し、皇帝の任命せる總督デリーに駐在し

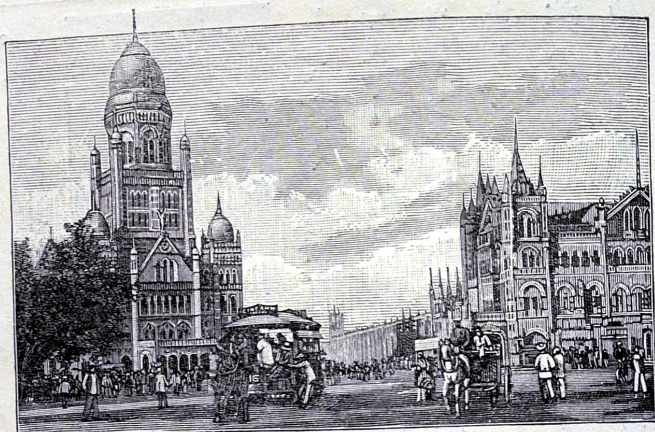
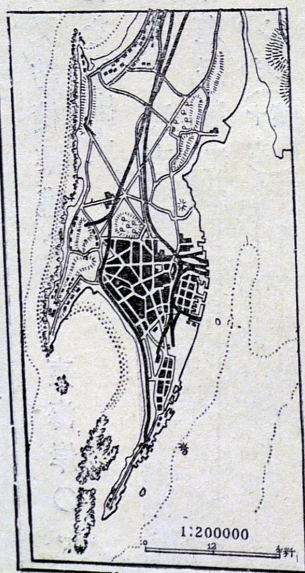
圖解　カルカッタ市街及び其の附近

人口二十萬以上の都會九　十萬以上二十萬以下の都會二十

て、これを統治す。　帝國は、更に直轄地と保護地とよりなり、前者は總督の任命せる知事これを治め、後者には王ありて、唯英人官吏の監督をうく。　錫蘭島は英國殖民大臣の管轄に屬し、印度帝國の一部をなさず。

七、**都會**　ガンガ河流域は土地よく開け、人口最も密にして都會亦多し。　カルカッタ(百二十萬)はガンガ河の三角洲にあり、從來首府たりし所なり。　黄麻及び米の貿易盛にて、全印度貿易總額の約三分の一を占む。　我が總領事館あり。　パトナ(十四萬)はガンガ河汽船航路の終點にして、阿片米藍の大市場なり。　附近にブダガヤあり、釋尊悟道の地として名あり。　ベナレス(二十一萬)はヒンヅー教の靈地なり。　デリー(二十一萬)はガンガ河の上流にあり、莫臥兒帝國の舊都と

圖解　孟買市街

圖解　孟買市街及び其の附近

孟買に我が領事館あり

して名あり。　印度皇帝の戴冠式は此の地にて行はれ、近時印度の首府となれり。　ラホール(二十一萬)は印度河の上流にありて、小麥を集散し、其の北西のペシャワール(十萬)はアフガニスタンに通ずる要地なり。　シムラは印度總督夏期の駐在地なり。　カシミル地方にスリナガルあり。　カシミル織を產す。

半島の西海岸には孟買(九十七萬)

面積　六萬六千方粁
人口　二百五十八萬

圖解　錫蘭人の風俗

圖解　錫蘭島の村落

佛蘭西領　シアンデルナゴル　ポンヂシユリー

あり、棉花の大輸出地にして、又紡績業盛なり。　東海岸のマドラス(五十一萬)港よりも、亦棉花を輸出す。」

錫蘭島は北海道より稍〻小なり。　英吉利の直轄殖民地にして、コロンボ(十六萬)は本島最大の港市なり。　島内山多くして種々の寶石・石墨及び茶を産す。マナール灣は眞珠の養殖に名あり。ツリンコマリは北西岸に於ける要港なり。

其の他、海岸地方には、佛・葡兩國の殖民地多けれども、其の區域何れも小なり。

カリカル　ヤナオン　マエ

葡萄牙領　ゴア　ヂウ　ダマン

八、我が國との關係　古代に於ては、支那・朝鮮を媒介として、佛教其の他此の地の文明を我が國に輸入し、開化を助けたる事少からず。

近時我が國は、此の地より綿・米等を輸入し、羽二重・メリヤス・樟腦等を輸出す。

日本郵船會社は、孟買航路及びカルカッタ航路を設け、主として此の地方よりの棉花運送をつかさどる。

第八章　印度支那半島

印度支那半島は、亞細亞洲の南に突出する一大半島にして、印度支那山系南北に縱走し、其の一派長く延びて馬來半島となり、ベンガル灣と暹羅灣とを分つ。

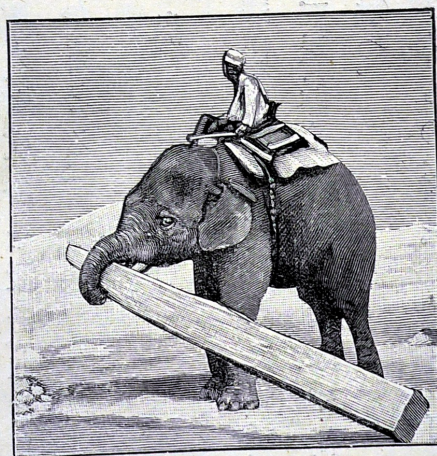
河流も大抵、山脈に平行して南流するもの多し。　メコン河・

*我が國にては南京米と稱す

圖解　象の作業

面積　六十七方粁
人口　一千六百二十萬

メナム河・サルウィン河・イラワヂ河等を其の主なるものとす。　沿岸に平野多く、産物亦少からず。　全部熱帯に位し雨亦多し。　平地には多量の米*を産し、森林にはチーク材多く、馬來半島は錫及び護謨を以てあらはる。　住民は主として、印度支那族なれども、支那人・馬來人及び雑種少からず。　多くは佛教信者なり。

二、**佛領印度支那**　半島の東部を占め、トンキン(東京)・コシェンシーヌ(交趾支那)の二領地と、ラオス(老撾)・アンナム(安南)・カンボヂァ(東蒲塞)の三保護地とよりなる。　佛蘭西の殖民地中最も重要なるものなれば、近時廣州灣を租借し、其の防備を固めたり。　東京はソンコイ河流域の地にして、直ちに支那本部に接す。　ハノイ(河内)(十萬)は總督の駐在地にして、又南清經營の策源地なり。　鐵道は此の地より雲南に通ず。　ハイフォン(海防)港は其の咽喉たり。安南の首府をユエ(順化)(五萬)といふ。沿岸のホンコーヘ・カムランの二灣は三十七八年戰役より有名となれり。　サイゴン(西貢)(五萬)はメコン河の三角洲に位し、コシェンシーヌの首府にして、佛國東洋艦隊の根據地なり、米の輸出多し。　カンボヂァの首府をプノムペンといふ。

圖解　東京の風俗

面積　六十萬方粁
人口　六百七十萬

三、**暹羅王國**　印度支那半島の中央にあり。　チーク材と米

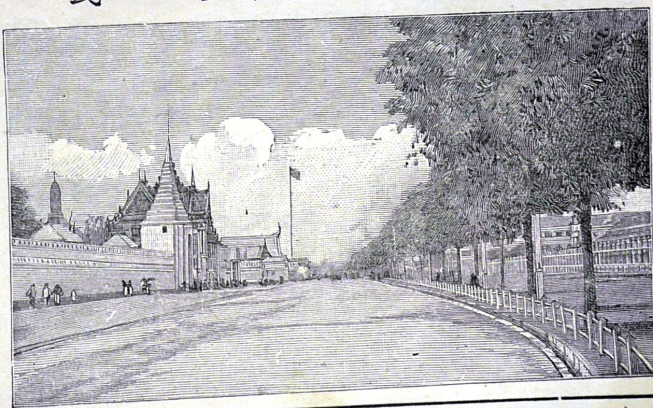
圖解 暹羅の王宮前通り

とを主要輸出品とす。家畜には象・水牛多し。

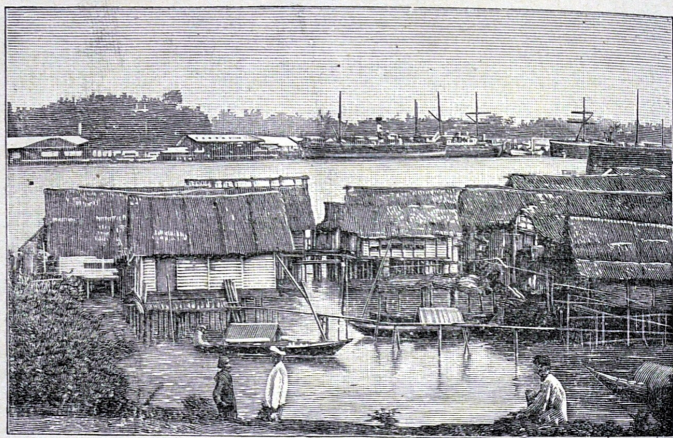
此の國の商權を握ぎれるは支那人なり。君主專制なれども、近時先進國の文明輸入に力をつくせり。軍備未だ整はざれども、財政極めて裕かなり。

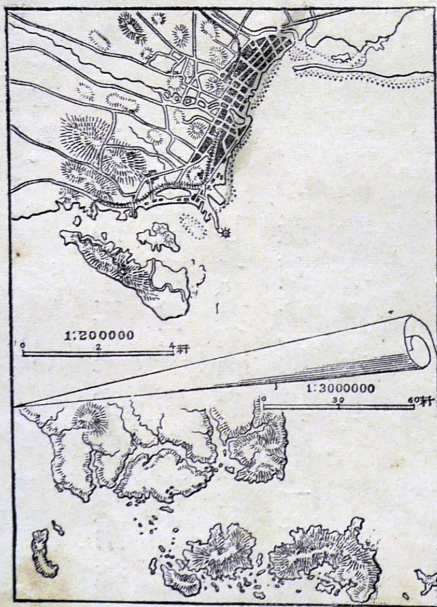
首府盤谷(六十三萬)はメナム河に臨み、我が公使館あり。附近に山田長政時代の日本村の遺跡あり。

三、**英領印度支那**　緬甸及び海峽殖民地・馬來聯邦の三に大別す。

(イ)**緬甸**　サルウィン・イラワヂー兩河の流域にして、行政上印度帝國の一部をなす。ラングーン(二十九萬)はイラワヂー河の三

新嘉坡に我が領事館あり

圖解 新嘉坡港附近の水上生活

圖解 新嘉坡及び其の附近

角洲に位し、米・チーク材の輸出多し。マンダレー(十八萬)は、舊緬甸王國の首府なり。

(ロ)**海峽殖民地**　新嘉坡(十九萬)は同名の小島の南岸にあり。東西交通の要衝にあたる。住民は支那人最も多し。坡・南・島・も良港にして前者と共に我が郵船會社汽船の寄港

地なり。

(ハ)馬來聯邦　馬來半島の南部にある四個の酋長國の聯合せしものにして、英國の保護をうく。錫の産額は、世界第一に位し、護謨の栽培盛なり。

圖解　護謨樹液採取

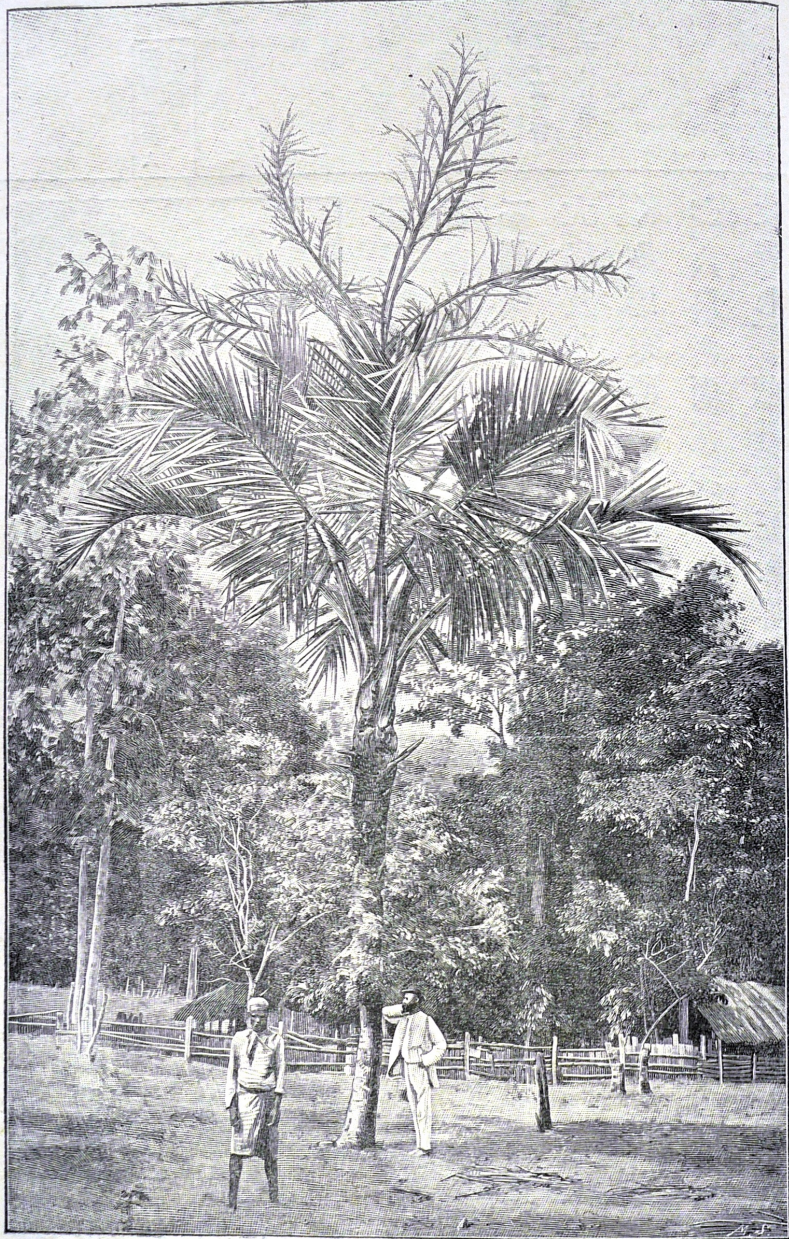
馬來聯邦に隣れる土人州も亦英國の保護を受く

スンダ海峡のクラカトア火山は明治十六年大破裂をなし數萬の人命を失へり

第九章　馬來群島

馬來群島は、東印度諸島とも稱し、スマトラ・ジャバ・ボルネオ・セレベスの四大島及びフィリピン・モルッカ・小スンダ等の群島よりなる。幾多の火山此の列島に沿ひて配列し、特にジャバ島に其の數多し。

全部熱帶にあれど、海風常に吹きて、氣候を緩和す。又雨量

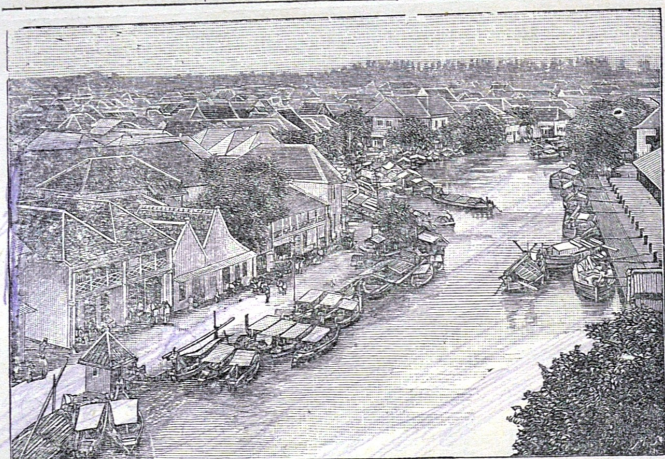
熱帶地方に於ける植物繁茂の圖

面積　百九十萬方粁
人口　三千八百萬

圖解　馬來人の風俗

多ければ植物よく繁茂し、特に肉桂・胡椒・丁子等の香料少からず。又、籐・米・サゴ・コプラ・砂糖・煙草・珈琲等の産多く、猩々・極樂鳥の如き、珍奇なるものも少からず。

住民は馬來族最も多く、支那人これにつぐ。多くは回教信者なり。

一、**蘭領東印度**　ジャバ・スマトラ・ボルネオ(大部)・セレベスの四大島及びモルッカ・小スンダの二群島及びパプアの一部をふくみ、馬來群島の四分の三を占む。

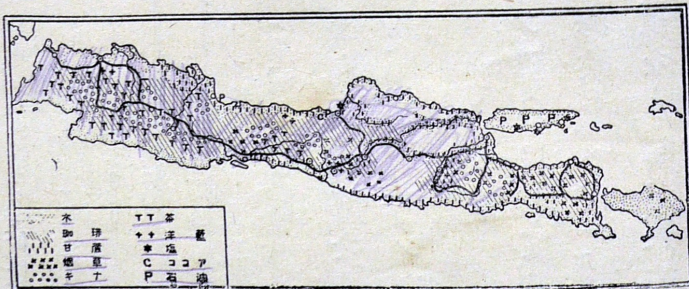
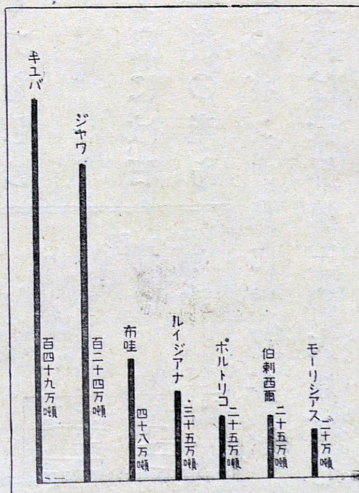
ジャバ島　面積我が本州の六割に過ぎざれども人口三千萬に近し。蔗糖の産世界第二にして、我が國製糖の原料となる、幾那も亦世界全産額の七割に及ぶ。其の他米・珈琲・茶・護謨等の産多し。バタビア(十四萬)は北岸に位し、東印度總督の駐在地なり。東部にはスラバヤ(十五萬)の良港ありて、其の繁華バタビアをしのぐ。

スマトラ島には、石油及び香料の産あり。附近のバンカ島には錫多し、

ボルネオ島は、世界第三の大島にし

圖解　ジャバ島に於ける物産の分布

圖解　バタビア市街の景
バタビアに我が領事館あり

圖解　甘蔗生産額比較

圖解　コプラの乾燥

面積　三十三萬方粁
人口　七百六十萬

て、金・金剛石・燕窩等の産あり、内地は未だよく開けず。

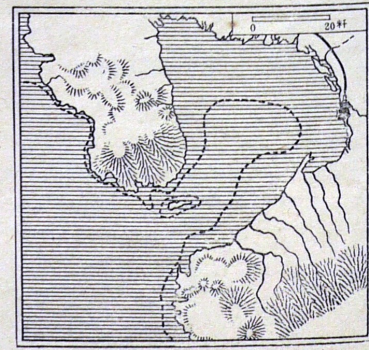
セレベス島は珈琲及び鼈甲（ベッカウ）（タイマイ）の産に名あり。』

モルッカ群島は肉荳蔲・丁子等多く、一に香料諸島といふ。

二、**英領東印度**　ボルネオ島の北部なり。首府をサンダカンといふ。ラブアン島には石炭の産あり。

三、**米領東印度**　フィリピン群島にして、我が臺灣とは僅かにバシ海峽をへだてゝ相對す。もと西班牙の領なりしが、米西

キユバ　百四十九万噸
ジャワ　百二十四万噸
布哇　四十八万噸
ルイジアナ　三十五万噸
ポルトリコ　二十五万噸
伯剌西爾　二十五万噸
モーリシアス　二十万噸

圖解　マニラ及び其の附近

戰爭（明治三十一年）の結果其の領となれり。最も大なるをルソン島といひ、ミンダナオ島これにつぐ。砂糖・煙草・麻・コプラ等の産多し。

マニラ（二十二萬）はルソン島の西岸にあり。總督の駐在地にして、我が領事館あり。其の北西のスビク附近には米國太平洋艦隊の根據地あり。海底電線は此の島の東岸よりグァム・ミッドウェー等の諸島を經て桑港に通ず。

修正新編
世界地理教科書 上卷終

世界八大强國々勢比較表（一九一〇年）

國名	面積（千方粁）	人口（百萬人）	歳入（百萬圓）	歳出（百萬圓）	國債（百萬圓）	平時陸兵（千人）	軍艦噸數（千噸）	商船噸數（千噸）	輸出（百萬圓）	輸入（百萬圓）	鐵道（千粁）	備考
英吉利	三一四	四五・四	二、三七一	二、三七一	七、二〇二	三九三	二、〇七八	一一、五五六	五、三四一	六、七八三	四一・八	本國
合衆國	九、三八六	九二・三	一、八六三	一、九〇一	一、八六〇	九一	七四〇	七、五〇〇	三、七六八	三、一一六	三九二・八	アラスカ、布哇ヲ含ム
露西亞	二二、五五六	一六六・二	二、九八五	二、九八五	一〇、三九九	一、三八四	六一九	七二三	一、三八三	九五三	七二・五	全露西亞
獨逸	五四〇	六四・〇	一、四六二	一、四六二	二、六三一	六二三	七七九	二、三四九	三、七三七	四、四六七	六一・〇	本國
佛蘭西	五三六	三九・三	一、六七三	一、六七三	三、一四六	六〇〇	六一三	一、四四四	二、三四二	二、六三六	四九・五	本國
墺地利	三〇〇	二八・六	一、〇九〇	一、一一三	二、二一〇							
洪牙利	三二四	二〇・八	七〇〇	五四八	二、二七九							
墺洪國	六七六	五一・三	一八三	一八三	二、〇八八	三九六	二三五	五〇三	九六七	一、一四〇	四五・九	全國
伊太利	二八六	三四・五	一、〇一五	九九五	五、〇九二	二八三	五六八	一、〇二〇	七八三	一、二五〇	一七・一	本國
日本	六七三	六八・〇	六七七	五三三	二、六五〇	二五〇	五〇二	一、六四六	四五八	四六四	八・三	全帝國

新編 世界地理教科書　上卷

索　引（數字ハ頁數）

ロ－マ字は文部省の調査表に據る（但し同表になき分は英語にて補充せり）

ア

イ　ヰ

ウ

エ　ヱ

大正元年十二月二十六日
文部省検定済

明治四十四年十二月十八日印刷
明治四十四年十二月廿一日發行
明治四十五年三月四日修正再版印刷
明治四十五年三月七日修正再版發行
大正元年十一月四日修正三版印刷
大正元年十一月七日修正三版發行
大正元年十二月二十日修正四版印刷
大正元年十二月廿三日修正四版發行

修正新編世界地理教科書上巻
定價金二拾九錢

不許複製

著作者 中目

發行者兼印刷者 龜井忠一
東京市神田區裏神保町一番地

印刷所 三省堂印刷部
東京市神田區三崎河岸十二號地

發行所（東京神田裏神保町）三省堂書店
電話本局(七二)・(長一七四九) 振替口座東京一五九七番

各國貨幣換算表

	貨幣		日本	清國天津	清國上海	英國	合衆國	露國	佛國	獨國
			圓	兩	兩	シリング	ダラー	ルーブル	フラン	マルク
日本	圓＝100錢	ハ	——	.74	.76	2.04	.50	.97	2.58	2.09
清國天津	兩＝10錢＝100分	ハ	1.46	——	1.05	2.76	.67	1.32	3.50	2.83
清國上海	兩＝10錢＝100分	ハ	1.29	.95	——	2.63	.68	1.26	3.33	2.69
英國	ポンド＝20シリング	ハ	9.76	7.21	7.57	——	4.84	9.49	25.50	20.40
合衆國	ダラー＝100センツ	ハ	2.01	1.48	1.55	4.09	——	1.95	5.30	4.25
露國	ルーブル＝100カペーキ	ハ	1.03	.76	.80	2.10	5.10	——	2.66	2.15
佛國	フラン＝100サンチーム	ハ	.39	.29	.30	.80	.19	.38	——	.80
獨國	マルク＝100ペンニヒ	ハ	.48	.35	.37	1.00	.24	.47	1.25	——

度量衡比較表

1. 尺度

1	尺	＝	0.3030	米	＝	0.9942	呎
1	里	＝	3.9272	粁	＝	2.4403	哩
1	米	＝	3.3000	尺	＝	3.2809	呎
1	粁	＝	0.2546	里	＝	0.6214	哩
1	呎	＝	1.0058	尺	＝	0.3048	米
1	哩	＝	0.4098	里	＝	1.6093	粁
1	浬	＝	0.4716	里	＝	1.8520	粁
1	尋(6呎)	＝	6.0349	尺	＝	1.8273	米

2. 面積

1	方尺	＝	0.0918	方米	＝	0.9885	方呎
1	方里	＝	15.4235	方粁	＝	5.9553	方哩
1	方米	＝	10.8900	方尺	＝	10.7643	方呎
1	方粁	＝	0.0648	方里	＝	0.3861	方哩
1	方呎	＝	1.0117	方尺	＝	0.0929	方米
1	方哩	＝	0.1679	方里	＝	2.5898	方粁
1	反	＝	0.0991	ヘクタール	＝	.2451	エークル
1	ヘクタール	＝	10.0833	反	＝	2.4719	エークル
1	エークル	＝	4.0804	反	＝	.4046	ヘクタール

3. 容積・重量

1	石	＝	180.3906	リットル	＝	4.9656	ブッセル
1	貫	＝	3.7500	キログラム	＝	8.2673	ポンド
1	リットル	＝	.5544	升	＝	.0275	ブッセル
1	キログラム	＝	.2667	貫	＝	2.2046	ポンド
1	ブッセル	＝	.2014	石	＝	36.3275	リットル
1	ポンド	＝	.1209	貫	＝	.4535	キログラム
1	米噸	＝	266.7000	貫	＝	2204.6000	ポンド
1	英噸	＝	270.9460	貫	＝	1016.0600	キログラム
1	英噸(容積)	＝	40	立方呎(40才)			